

歷朝詔詞解

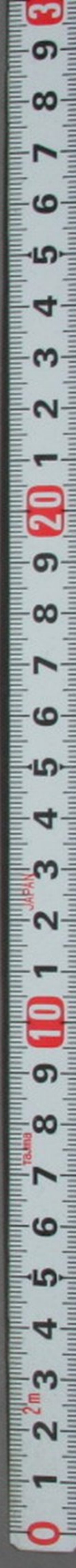
五

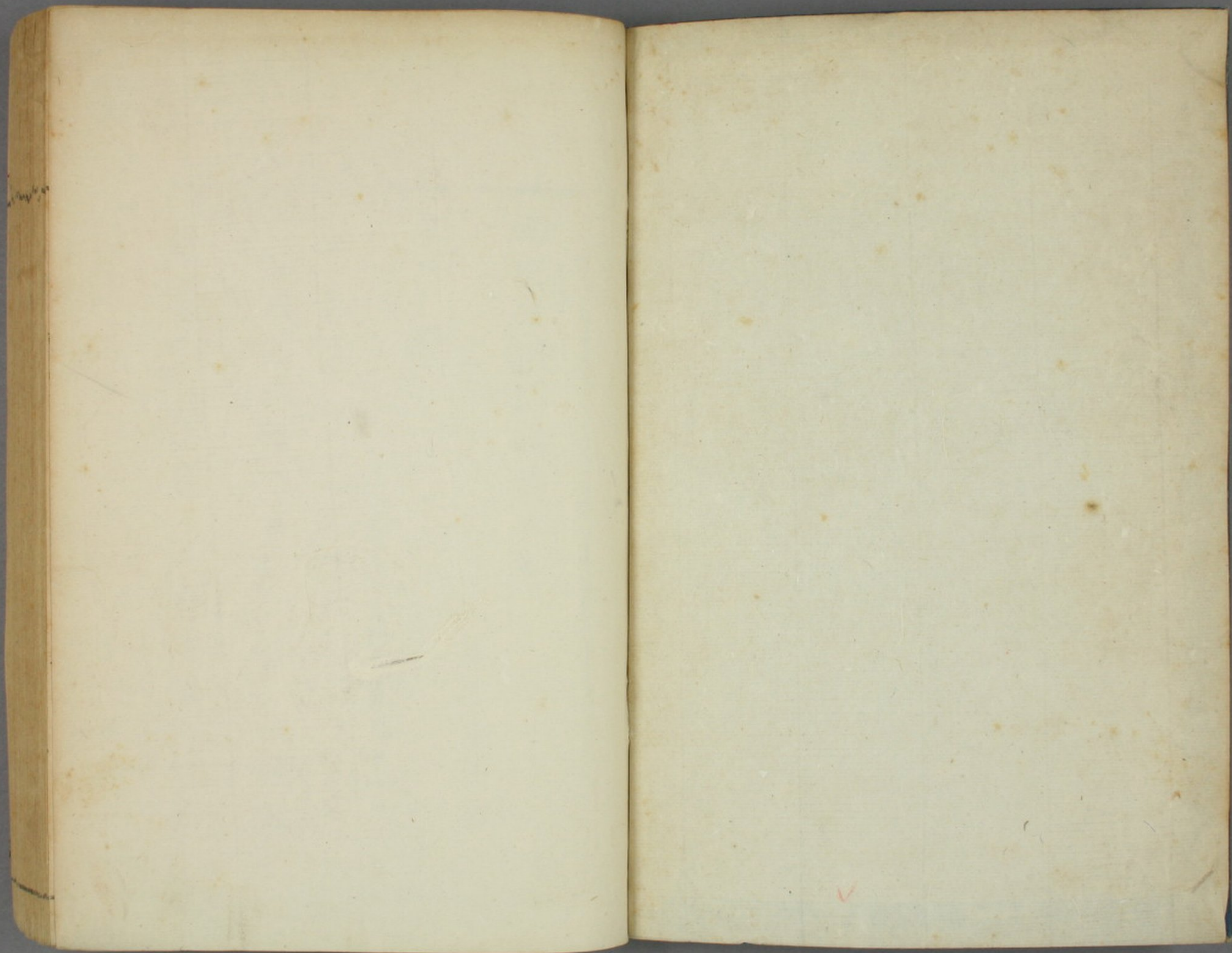
和装本

717

6266

5





門 717
號 6266
卷 5

續紀歷朝詔詞解五卷

本居宣長解

第卅二詔

二十六の卷ふ。天平神護元年正月癸己朔己亥改元天平
神護勅曰云々。又詔曰とらる。

天皇何大御命スメラガオホミコト良麻ラマ勅大御命乎衆聞食ミコトヲモロクキコシメサヘ

止ト勅ノル行奉人等中ツカヘミツルヒトトモノナカニ其仕奉隨狀治給人ソノツカヘミツルサノミキクヨサメタニフヒト

毛モ在又御軍アリマタミイサニ仕奉ツカヘミツ依ル治給人ヨリテヨサメタニフヒトモ

○詔詞解五

○一

利 2/10
介

利 2/10
5

東京大学
文学部
図書印

在然此多比賜位冠方常與利異仁在可
アリサテコノタビタニフクニナリハツネヨケニアリカ
 久賜故方平伎時仁奉侍
クタニフユエハタヒテキトキニツカヘマツル
 奉侍在年如此久宇治方夜伎時仁身命
マツラズアラムカククウヂハヤキトキニイノチ
 乎不惜之貞久淨心乎以天朝庭乎護奉
フシレマズレタニクキヨキコロシモチテミカドヲモリツカヘ
 侍流人等曾乎已治賜比哀賜使倍物尔在
マツレヒトドモソフコヨメタニヒアレミタニバモノアル止
 念故是以今由久前毛緩怠事無諸
モオモホスカレコヲモテイマユクサキモニタニオコルコトナクモリ
 能劣人等教伊佐奈比進常與利益
ノシチナヒトドモモフシエイザナヒスハメツネリカニ

須益須勤結理奉侍冠位上給治
ヌマヌツトメシマリツカヘマツル止之テカフリクニ年アゲタニヒシサマ
 給宣御命乎諸聞食止宣
タニハクノリタニラオホミコトヲモロクキコシメサヘ止ル

其仕奉。如も。仕字。成。脱。きり。今。補。○御軍。尔。云。く。ハ。去。年。九。月。夜。
 系。仲。麻。呂。を。討。め。り。時。の。多。し。以。上。を。漢。文。の。勅。り。其。從。去。九。月。十。
 一。日。至。十。八。日。職。事。及。諸。司。番。上。六。位。已。下。供。事。者。宜。亦。
 加。一。階。唯。正。六。位。上。依。例。賜。物。と。仰。ハ。出。軍。士。の。外。を。へ。○位。
 冠。考。小。冠。位。と。い。ふ。と。又。か。く。い。ち。を。も。つ。例。正。七。位。上。一。階。を。考。
 も。考。○異。仁。ハ。氣。尔。と。例。べ。異。を。氣。と。い。ふ。と。考。万。葉。十。三。
 小。常。從。異。鳴。○誰。人。可。云。く。ハ。易。き。也。誰。も。も。み。る。よ。く。仕。を。こ。
 と。と。し。○宇。治。方。夜。使。宇。守。印。本。小。保。今。ハ。一。本。小。保。也。

此を以て師の冠を考らざるや帝の儲ふるより但しは宇治と稜威と
を一つふいよとせしむるは御座る稜威ももより別しうぢるやきいぢるやき
もいひ此のいを省きてちるやぢるもいぢるは氏和徳梯もふ后のいん
いぢるやきといひては御座るは御座るは御座るは御座るは御座るは御座る
よりて乱るるは御座るは御座るは御座るは御座るは御座るは御座るは御座る
あり又一本少々父の下に明久の二まゝ。○勤結理。身一仍ふあり。

第卅三詔

同年三月丙申。勅云々。復詔曰と有り。

天下政方君乃勅仁在乎已可心乃比岐
比岐太子乎立止念天欲流物不在然
比岐太子乎立止念天欲流物不在然

此位方天地乃置賜比授賜布位仁在故
是以朕毛天地乃明伎奇岐徵乃授賜人
方出奈牟念天在猶今乃間方明仁淨岐
心乎以天人毛伊佐奈須方礼人乎止毛奈
方類於乃毛於乃毛貞仁能久淨伎心乎
以天奉仕止詔手已止諸聞食倍詔復有人
方淡路仁侍坐流人乎率來天佐良仁帝

○詔詞解五

○三

止ト 立天天下乎治之米念天在人毛在良
 止ト 奈念然其人方天地乃宇宙倍奈弥由流
 毛モ 授賜流人不在何乎以天知止奈志
 天テ 愚仁心不善天下乎治仁不足然乃味
 之シ 不在逆惡伎仲末吕止同心朝廷乎動
 アラズ キタナ 之シ 傾無謀天在人仁在何曾此人乎復立
 之シ 念無自今以後如此念天謀止
 止ト 念無自今以後如此念天謀止

等 詔大命 乎 聞食 倍 宣

比岐比岐 本がとふ比岐 二字以爲せり今ハ一本が依とあり比岐一
 本が ○敬須ハ念天と重なりて 經ありて 皇國の事とて 神代
 紀より 後より 神代紀より 今ハ 皇國の事とて 皇國の事とて 皇國の事とて
 〇天地乃置賜 比云々 此ハ 皇國の事とて 皇國の事とて 皇國の事とて
 〇朕 毛 下は念天 在へ係あり 〇天地乃明 伎云々 明ハ奇き
 祥瑞を現りて 天地乃授多給人といふこと 〇今乃聞方 此言下
 〇人 仁 毛云々 仁ハ 皇國の事とて 皇國の事とて 皇國の事とて

まゝ此佐の次小和氣者一品舍人親王之孫正三位御原王
 之子也勝室七歲賜姓岡真人任因幡掾室字二年二ハ三
の俱
 追尊舍人親王曰崇道盡敬皇帝至是復屬籍授從四位
 下八年至參議從三位兵部卿于時皇統無嗣未有其人
 紀朝臣益女以巫鬼著得幸和氣心挾窺寄厚賂幣物參
 議從四位下近衛貞外中將兼勅旨貞外大捕式部大捕
 因幡守粟田縣臣道麻呂兵部大捕兼美作守從四位上
 大津官祿大浦式部貞外少捕從五位下石川朝臣永年
 等與和氣善數飲其宅道麻呂時與和氣密語而道麻呂
 佩刀觸門屏折和氣即遺以裝刀於是人等心疑頗泄其
 事和氣知之其夜逃竄索獲於率河社中流伊豆國到于
 山背國相樂郡絞之埋于狛野又絞益女於綴喜郡松井

村とつり復屬籍と岡真人の姓を傳て徳王小復まをいふ以巫より
 賂幣物まを以文いさうんはくく考字ねごまをまのを藤原永
 手大は傳小道鏡因播籍恩私勢振内外自廢帝點宗室有
 重望者多罹非辜日嗣之位遂且絶矣道鏡自以寵愛隆
 渥日夜僥倖非望とつと室龜二年九月和氣王男女大
 伴王長岡王名草王山階王采女王並復屬籍とあつと次
 合せしむこの和氣王を保ふといひをかく罪おらせしと道鏡奴
 が誣まをいさうんはくくし

今和氣仁勅久先尔奈良麻呂等我謀反
 乃事起天在之時方仲麻呂伊忠臣
イマワケニノリタハクサキニナラマロラガムホム
 ノコトオコリテアリシトキニナカマロイタシキオミト
 乃事起天在之時方仲麻呂伊忠臣天止之

侍都然後仁逆心乎以天朝廷乎動頃止
ハヘリツ サテノチニ キタチキコ、ロヲ モチテ ミカド ヲ ウコシカダケムト
 天兵乎備流時仁和氣伊申天在此依
テ イクサヲ ソナラレル トキニ ワケケ イイラシテ アリコレ ヲ
 天官位乎昇賜治賜都可父止方阿礼仲麻
テ ツカサクラキヲ アゲタニヒ ヲサメタニヒ ツカカクハ アマレモ アリケレ ナカ
 呂毛和氣毛後猶逆心以天在利復己
ロ モ ワケケ モ ノチニ ナホキタチキコロラモチ テ アリケレ マタオノ
 毛先靈仁祈願幣書乎見云天在久良己
ガ オヤノミタニニ ノミネガ ハ フミヲ ミイヒ テ アラオノ
 我心仁念求流事之成給波尊靈乃子孫
ガ コ、ロニ オモヒモトム レ コトヲ ナシタニヒ テ クラトキミタニ ノ コノミ
 乃遠流天在京都召上天臣止成
ノ トクハアリ テ アルガ 乎ミヤコニ ノサゲテ テ オミナサ ナサ

云利復己怨男女二人在此乎殺賜止幣云
イヘリ マタオノガ アマヲノコ ヲミナフタリ アリコラ コロシタマ
 天在是書乎見流謀反乃心止阿利明仁見
テ アリコノフミヲ ミイヒ ムホム ノ コ、ロ アリ アキラカニ ミ
 都 是以 天法 未仁 治賜 止 宣
ツ コ、シモ テ ノリ ノ末ニ ヲサメタニフ ノリニラ
 謀反乃、うハ乃、字、つとバ、考、小、後、べ、此、謀、反、乃、事、ハ、十、六、年、乃、り、正、二、派、ま
 下、ふ、也、○、仲、麻、呂、伊、伊、字、一、本、小、可、と、伊、ハ、心、が、こ、し、可、也、ハ、信、乃、の
 とも、○、傾、止、之、一、本、小、之、字、好、し、む、が、こ、し、○、和、氣、伊、云、く、伊、字、一、本
 小、何、と、伊、ハ、例、の、さ、の、ら、の、む、が、こ、し、何、を、ハ、叶、ひ、を、ま、て、仲、麻、呂、が、謀、反、を、
 伊、王、に、告、奏、さ、さ、し、り、り、紀、ふ、ハ、又、こ、し、こ、し、と、仲、麻、呂、誅、さ、れ、り、乃、の、乃、次
 小、此、日、迄、臣、位、上、り、從、三、位、小、叙、き、り、又、此、年、神、護、三、月、小、功、田、五、十、町、を、賜
 つ、ま、ね、ど、つ、ハ、告、奏、さ、さ、し、り、り、○、官、位、乎、云、く、位、の、乃、ハ、告、ね、ど、く、

其時從三位小御等よりよき事にて、仁友は、ハハもこと成生、ハハも引家
 文小室字八年、至參議從三位兵部卿と云り。○仲麻呂毛
 和氣も云々。仲麻呂が逆心の事ハ既小上小入、又かくつらハ、ハハもなり。
 て、ハハもを、ハハも此和氣もかの仲麻呂と曰、やう小後、ハハもいふ事
 云べし。○後仁猶、猶ハ、ハハも先ハ善なり、ハハも程、ハハも又、ハハも仲麻呂と
 曰く、ハハもも、ハハもあつ、ハハも含、ハハもす。○復己毛、毛、ハハも可、ハハも得、ハハも又
 を之、ハハも大書、ハハもい、ハハもふ、ハハもめ、ハハもか、ハハもと、ハハもき、ハハも事。○先靈ハ、ハハも於、ハハも夜、ハハも乃、ハハも美、ハハも多
 麻と、ハハも訓、ハハもべし。祖父舍人、親、ハハも又、ハハも父、ハハも御原王、ハハもね、ハハもどの、ハハもは、ハハも事。○見、ハハも一、ハハも本、ハハも仁、ハハも字、ハハも成
 脱、ハハも云。天在、ハハも良。そ祈の事、ハハもあ、ハハもて、ハハもま、ハハもや、ハハもう、ハハもは、ハハもと、ハハもし、ハハもつ、ハハもく、ハハもハ、ハハもあ、ハハもと、ハハも近
 する、ハハも光、ハハもつ、ハハもを、ハハもいと、ハハもく、ハハも子、ハハもと、ハハも曰、ハハも格。○己我心を吾心。○成給、ハハも天、ハハも波、ハハも
 ハ、ハハもく、ハハもむ、ハハもたま、ハハもし、ハハも波、ハハも字、ハハも濁、ハハもを、ハハも憶、ハハもべし。○尊靈ハ、ハハもを、ハハも委、ハハもふ、ハハも對、ハハもして、ハハも中、ハハも言、ハハもを
 不、ハハもふ、ハハも尊、ハハもと、ハハもつ、ハハもり。○子孫ハ、ハハもく、ハハも古、ハハも村、ハハも母、ハハもと、ハハも訓、ハハもべし。子、ハハもと、ハハもい、ハハもを、ハハも子、ハハも孫、ハハもも、ハハもわ、ハハもる

あり、ハハもて、ハハもハ、ハハもウ、ハハもミ、ハハもコ、ハハもね、ハハもど、ハハも訓、ハハもむ、ハハもわ、ハハもる。○遠流、ハハも天、ハハも在、ハハも中、ハハも流、ハハも天、ハハもハ、ハハも波、ハハも夫、ハハも理、ハハも且、ハハも
 訓、ハハもべし。右事記小姓、ハハもを、ハハもた、ハハも伊、ハハも縁、ハハもふ、ハハも流、ハハもを、ハハも流、ハハもふ、ハハも時、ハハもの、ハハも所、ハハもより、ハハも意、ハハも富、ハハも岐、ハハも美、ハハも表、
 斯麻、ハハもハ、ハハも波、ハハも夫、ハハも良、ハハも婆、ハハもと、ハハもを、ハハも放、ハハも溢、ハハもを、ハハもを、ハハも放、ハハも棄、ハハも遣、ハハもる、ハハもを、ハハも了、ハハも了、ハハも十九、ハハも小、ハハも四、ハハも方、
 之人、ハハも乎、ハハも母、ハハも安、ハハも夫、ハハも左、ハハも波、ハハも受、ハハもを、ハハもる、ハハもを、ハハもと、ハハも曰、ハハもく、ハハも了、ハハも了、ハハも弥、ハハも麻、ハハも之、
 大臣、ハハも之、ハハも家、ハハも内、ハハも子、ハハも等、ハハも波、ハハも布、ハハも理、ハハも不、ハハも賜、ハハも失、ハハも不、ハハも賜、ハハも慈、ハハも賜、ハハもを、ハハもり、
 舍人、ハハも親、ハハもま、ハハもは、ハハも子、ハハもら、ハハも船、ハハも王、ハハもハ、ハハも陽、ハハも岐、ハハも小、ハハも池、ハハも田、ハハも王、ハハもハ、ハハも土、ハハもを、ハハもふ、ハハも係、ハハもな、ハハもれ、ハハもり、ハハもを、ハハも此、ハハも所、
 小、ハハもん、ハハもく、ハハもむ、ハハもく、ハハも此、ハハも二、ハハも王、ハハもの子、ハハもら、ハハもも、ハハもつ、ハハもふ、ハハもを、ハハもる、ハハもを、ハハも包、ハハもを、ハハもべし。廢帝ハ、ハハも下、
 文、ハハも小、ハハも依、ハハもふ、ハハも内、ハハも入、ハハもへ、ハハもく、ハハもむ、ハハもを、ハハも在、ハハも乎、ハハもも、ハハもつ、ハハもべき、ハハも法、ハハもの、ハハも務、ハハもひ、ハハも小、ハハもす、ハハもを、ハハもは、ハハも乎、ハハも方、
 の、ハハも方、ハハも字、ハハも毛、ハハもを、ハハも強、ハハもま、ハハもる、ハハも但、ハハもく、ハハも吾、ハハもハ、ハハも天、ハハもを、ハハもと、ハハもね、ハハもる、ハハもを、ハハも乎、ハハも方、ハハもを、ハハもさ、ハハもむ、ハハもと、ハハも對、ハハもへ、ハハもつ、
 ま、ハハも小、ハハもん、ハハもど、ハハも乎、ハハも方、ハハもを、ハハもと、ハハもる。○召上、ハハも万、ハハも葉、ハハも五、ハハも小、ハハも奈、ハハも良、ハハも能、ハハも美、ハハも夜、ハハも故、ハハも小、ハハも咩、
 佐、ハハも宜、ハハも多、ハハも麻、ハハも波、ハハも祿、ハハも。○臣、ハハも止、ハハも成、ハハも止、ハハも。本、ハハも小、ハハも光、ハハも止、ハハも二、ハハも字、ハハもなり。一本、ハハも小、ハハも光、ハハも字、ハハもつ、
 て、ハハも止、ハハも字、ハハもな、ハハもく、ハハも今、ハハもハ、ハハも又、ハハも一、ハハも本、ハハも小、ハハも依、ハハもと、ハハもり、ハハもを、ハハもは、ハハも臣、ハハもと、ハハもつ、ハハもハ、ハハも上、ハハも代、ハハも小、ハハも八十、ハハも伴、ハハも法、ハハもの中

小京侍て侍ふ者一々仕なむを臣連とてその居れども之を
 廷近く仕なむ人々おぼしむといふと知るべし王后と王女對へり居れども何
 らどかの船王池田王女と親王御をたすれども其の御主おぼしめし居れども
 王女を臣おぼしむといふよゝあそをたすらざるに臣王より早しき事を
 ○己怨男女二人といふ事天を以て道統と知るべし怨ハウラメシキ事
 洲べくとも候字派をば阿多知とてこそつとく中へべき事ハ御事と
 も己ををたすらざるをいふは妨をばつとく○殺賜幣止こ事や
 祈の書いづとよし一本お此お今一つ殺賜二字つとくハ衍心○謀反乃心
 阿利阿利二字一本お在と作已止波

第卅五詔

上引も文おほくきて是日又下詔曰とわらむ

栗田道麻呂大津大浦石川長牟等ハハタノミチマロオホツノオホウライイシカハノナガトシラニノリタテ
 朕師大臣禪師乃宣久愚癡仁アガシオホオミゼムシノノリクバクカタクナニ在奴方アルヤツコハ
 思和父事オモヒワクコトモ無ナク人乃不當無禮止見咎ヒトノナメクキマナシトミトガ
 牟流不知ムシラズ之シ惡友アキトモ尔所引率ニイザナハル流物在是以モノニアリコトヲモテ
 此奴等コノヤツコトモ如是カ久ク逆穢心キタナキコロ乎發天在ヲオコシテアリ計利ケケリ
 既明スデニアカラカニ知奴シリヌ由コレニヨリ此テ天理コトワリ波ハ法ノリ乃未ノ未ニ尔治給ヲメクシテ
 倍ベ在然アリモトモ此遍コノタビ方ハ猶道鏡伊ナホダウキヤウイ所賜タニハリ天テ彼等カレラ我ガ

惑心ハドヘルコ、ロ 教導ヲシヘミチビキテ 天貞タマシク 久ク 淨キヨ 伎心キココロ 乎ヲ 以モチ 天テ 朝庭ミカド
 乃ノ 御奴ミヤツコト 止ツカヘマツラ 奉仕ムスビ 之シ 米メ 宣ノリタラ 尔ニ 依ヨリ 天チ 汝等イシドモ 我ガ 罪ツミ
 方ハ 免給ユルシタラシム 但官ツカハ 方ハ 解給トリタラ 不フ 散位タラシ 止ト 之シ 奉仕ムスビ 止ト
 勅御命ノリタラオホミコト 乎ヲ 聞食キコシメサ 倍ヘ 宣ノル 又マタ 勅ノリタラ 久ク 從今イマヨリ 往前ユクサキ 仁ニ
 小過コトガヒ 毛モ 在人アラムヒト 仁ニ 所率イザナハ 流ル 止ト 所聞キコシメサ 波ハ 必法カナラヌノリ 乃ノ
 仁ニ 尔ニ 未マ 罪ツミ 比奈ヒナ 給岐タヒキ 良ラ 比ヒ 給タハム 止ト 勅御命ノリタラオホミコト 乎ヲ 聞食キコシメサ
 止ト 倍ヘ 宣ノル

栗田道麻呂。栗田朝臣ハ姓氏係リ。天足彦國押人命三世孫。彦國革命之後也。是名國押人命。命ハ孝昭天皇於此の湯子あり。道麻呂ハ誰ガ子ナラシム。詳カシク官位ハ世々流の事ハ此の文ナシ。カガヒ。○大津大浦。大津宿祢姓氏係ル。此の姓ハ大津大浦宿祢。天平宝字八年九月。此大浦宿祢の姓を賜リ。大浦ハ誰ガ子ナラシム。詳カシク。宝龜六年五月。從四位上。陰陽頭兼安藝守。大津連大浦卒。大浦者。世習陰陽。仲滿甚信之。尚以事之吉凶。大浦知其指意。涉於逆謀。恐禍及己。密告其事。居未幾。仲滿果反。其年授從四位上。賜姓宿祢。拜兵部大浦兼美作守。神護元年。以黨和氣王。除宿祢姓。元遷日向守。尋解見任。即留彼國。宝龜初原罪入京。任陰陽頭。俄兼安藝守。卒於官。○石川長年。石川朝臣ハ姓氏係ル。孝元天皇。皇

子彦太忍信命之後也と云少建内宿祢の末長年ハ誰が子なり
洋あつて天平宝字八年十月從五位下叙し同月式部大輔
お任むその年字を後でて手と化して件の三人和氣王お同心と
その事世里後のうらも引る文のうらとかく天皇を后妃どの大令
なりは八位ふる少き此奴がいたるを御しとかく天皇を后妃どの大令
と同日にふふ派まうハまききと云し○愚癡ハカタクナと訓べし天智紀ハ
癡奴○人乃本ぞと云ハ二字なり今ハ一本お依○不當ハオ九派
無礼之不從奈賣久在牟人波と云る後き成也久那賣久と
訓べきと云ふ十二小妹登曰者無礼恐といふなり不當此と云り
○見咎十ハ派人乃可見咎事射曾○所引率ハイガ
ナルと訓べしいさぬわいさぬと云ふ多々中ふ世に依人毛伊
佐奈須禮と假まきと云○此奴等ハ上件の三人をいなり○逆穢心

手發ハ人いさぬわいさぬと云ふ○道鏡伊所賜天ハ倍まふまうひて
と云ふ今同ト○朝廷乃御奴御奴御臣官奴といふ物まをわ
らぬ散位とてと云ふを知しと云ふは長けらばかて朝廷乃いふ及
ふまに記とるまきと云ハ道鏡伊所賜天と云ハ道鏡が領する私
の人まうまに記とてかてかハいふし○奉仕元米元字本ハ天ハ誤
今ハ一本お依○宣亦依天ハ是後がかりいふまうてし○解ハ登理
と訓べし六十二派ハ解官取冠久云く官冠手取賜此云く
取冠罪波免賜官手乃解賜此云く天武紀ハ官位盡追
追字ハ逐亦此と云し○散位此訓おがしと云ハ祿と訓るれと云ふと云
しやうふちおがしおれは姑くまの遣ふまて散位とハ官好くまて位のと
おがしなり○從今往前一本お今下ハ波の細字つら行也○必法乃
おがしと云ふ字なり今ハ一本お依○岐良此給十九派ハ給○件のめく

詔きまうとども次の文より居十餘日以道麻呂為飛驒負外以
其怨家從四位下上道朝臣斐太都為守斐太都到任即
幽道麻呂夫婦於一院不通往來積月餘日並死院中從
四位上大津連大浦為日向守奪其位封從五位下石川
朝臣永年為藤岐負外介到任數年自縊而死とあり

第卅六詔

同年閏十月庚寅詔曰と有りされまに十月小紀伊國小幸の時加
へる弓削行宮小到坐し弓削寺小幸て佛を礼ふとあり此詔も弓削
行宮小幸りまに河内小幸り於此後郷心

今勅久太政官能大臣方奉仕倍人乃侍

坐時必其官乎授賜物仁在是以朕師
大臣禪師能朕乎守比助賜乎見方内外
二種乃人等仁置天其理仁慈哀天過無
久奉仕之米天念保之米可多良比能利
多言乎聞仁是能太政大臣乃官乎授都
布言乎聞仁是能太政大臣乃官乎授都
流仁敢多比奈年念故是以太政大臣禪
師能位授留止勅御命乎諸聞食止宣

復^{マタノリキニハリ}勅^{コノクニキ}久^ヲ是^{サマシ}位^ヲ乎^{サマシ}授^{サマシ}未^モ都^ツ良^ヲ申^マ佐^サ必^カ不^バ敢^カ伊^イ

奈^ナ等^ト宣^{ノリ}多^タ方^バ念^{オモホ}之^シ奈^ナ毛^モ不^マ由^ラ之^シ是^コ能^ノ太^{オホシ}政^シ大^{オホ}

臣^{オミ}禪^{ゼム}師^ジ乃^ノ御^ミ位^{クラキ}授^{サツケ}未^モ都^ツ勅^{ノリシ}御^{オホ}命^{ミコト}乎^ヲ諸^{モロク}聞^キ食^{メウヘ}

等^ト宣^ル

奉^キ任^任倍^倍人^人乃^乃云^云ハ無^無其^其人^人則^則闕^闕と云^云はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

人^人有^有之^之任^任と云^云はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

布^布み^みを^を同^同じ^じ○見^見礼^礼ハ^ハ生^生休^休を^を云^云はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

在^在外^外典^典と^とい^いふ^ふく^く僧^僧を^を内^内々^々白衣^{白衣}を^を外^外と^とい^いふ^ふく^くを^を皆^皆佛^佛家^家の^の私^私

る^るお^おの^のを^を常^常々^々も^も任^任する^{する}は^はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

天^天ハ^ハ於^於る^る○其^其理^理仁^仁も^も僧^僧を^を白^白衣^衣ハ^ハ白^白衣^衣と^と各^各々^々も^もわ^わり^り小^小を^を

如^如字^字也^也形^形を^を見^見る^る見^見る^る師^師香^香跡^跡悒^悒憤^憤時^時之^之如^如多^多

印^印布^布小^小天^天志^志可^可を^を志^志天^天と^と云^云はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

多^多比^比奈^奈年^年可^可を^を一^一布^布小^小多^多可^可比^比奈^奈年^年と^と云^云はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

○念^念之^之天^天一^一布^布小^小天^天志^志を^を脱^脱を^をり^り○御^御位^位御^御字^字道^道後^後を^を云^云はつ^つきも^もか^かハ^ハ治^治多^多其^其

事^事畢^畢幸^幸弓^弓削^削寺^寺礼^礼佛^佛奏^奏唐^唐高^高麗^麗樂^樂及^及黑^黒山^山尔^尔師^師部^部讎^讎施^施太

○詔詞解五

十三

政大臣綿一千屯僧綱及百官番上己上至直丁擔夫各有差内豎衛府特賜新錢亦有差と云擔夫の下脱文は... 〇同月丙申留守百官拜賀太政大臣禪師賜五位己上綿人三十屯と有り... 〇系小加つせ給ひて侍らむ。

第卅七詔

同年十一月癸酉先是廢帝既遷淡路天皇重臨万機於是更行大嘗之事以美濃國為由機越前國為須伎庚辰詔曰云々又詔曰とあり。

由紀須伎二國守等仁命汝多知貞仁
 明伎心乎以天朝廷能護等之關仁奉供
アカキコロヲモチテミカドノモリ等之セキ仁ツカヘツ

禮方國多久在美濃越前御占
 仁之合夫大嘗乃政事取以天奉供
レバカニオホクアレドミノトコシニチノチトミウラ
 アヒテオホニハノニツリゴトヲトリモチツカヘニシ
 仁ニ之合夫大嘗乃政事取以天奉供止ト良之

念行位冠賜宣
オモホレメシテナクニヤカクタニハクイタラフ

開仁奉供之禮方由紀之美濃國小不破須伎之越前小愛
 〇越前ハ和名新小古之乃三知乃久知と云。〇御占仁合天也。

由紀須伎の國郡を定めて御り。先づ神祇官を作す。以てつらて。會
 承の初を以て定めて御り。○大嘗杯。乃ち奉祀傳八の老の委く云
 べ。○取以天奉供。良之。神祇令小凡大嘗者。每世一度國司
 行事。とて。由紀須伎のつらて。御り。奉小奉。上りて。此のつらて。御り。
 の。御り。乃ち奉祀傳八の老の委く云。乃ち奉祀傳八の老の委く云。
 多々。美徳と稱あ。由紀須伎のつらて。御り。乃ち奉祀傳八の老の委く云。
 關を守り。乃ち奉祀傳八の老の委く云。乃ち奉祀傳八の老の委く云。
 小依。○念行。天奈。毛。字。一本。小年。と作る。乃ち奉祀傳八の老の委く云。
 上。乃ち奉祀傳八の老の委く云。乃ち奉祀傳八の老の委く云。
 位下小野。朝臣竹良。從四位下。介正六位上。藤原朝臣家
 依。從五位下。越前守。從五位上。藤原朝臣。繼繩。從四位下。
 介。從五位下。弓削宿禰。牛養。從五位上。乃ち奉祀傳八の老の委く云。

第卅八詔

件の文より、乃ち奉祀傳八の老の委く云。又詔曰。乃ち奉祀傳八の老の委く云。

今勅。久。今日。方。大新嘗。乃。猶良比。能。豐明。
 聞行。日。仁。在。然。此。遍。能。常。與。別。仁。在。故。方。
 朕。方。佛。能。御。弟子。等。之。菩薩。能。戒。乎。受。賜。
 天。在。此。仁。依。天。上。都。方。波。三。寶。仁。供。奉。次。
 仁。乃。天。社。國。社。乃。神。等。毛。爲。夜。都。利。次。方。供。
イニノリタハクケハオホニヘノナホラヒトヨノアカリ
キコシメスヒ仁ニアリシカニコノタビノツネヨコト仁ニアルユロハ
アレハホトケノミデシト等之レハサチノイミヨトヲツケタマヒ
テアリコレニヨリテカミツカタハホトケニツカヘニツリツギ
仁ニアツヤシロクニツヤシロノカミタチヲキヤ都利次方ハツカヘ

奉留親王ヲカハラモロク 多知タチ 多知タチ 百官モノツカサ 能人ヒト 等天下タチアメノシタ 能人オホシ
 民諸タカラモロク 乎ヲ 愍賜慈賜アレミタマヒ 等念オモヒ 奈還ナカハリ 復天下マタアメノシタ
 乎治賜故汝等ヲツクマタフカレイニシタチ 毛安モヤス 於多比オダヒ 仁侍ニハハリ 天由アメノシタ
 紀須伎二國キスフタクニ 乃獻ノタテニ 留黑紀ルクロキ 白紀シロキ 能御酒ニミキ 乎ヲ
 赤丹アカニ 乃保仁ノホニ 多末倍タマヘ 惠良エラ 伎常キツネ 毛賜酒幣モタラサカヒ
 乃物乎賜利ノモノヲタメハ 以天退止モチテカレト 爲レ 奈御物賜オホシモノタメ 久方クハ
 止ト 宣復勅ノリタラマタノリタマハク 久神等カミタチ 爲三寶ホトケ 除離ヨサケ 天不觸物テラレヌモノ

曾止人ゾトヒト 能念オモヒ 在然經アルニカレトモキヤウ 乎見ヲミ 未都佛ホトケ 能御ニミ
 奈毛ナモ 護未都尊モリモツタラシ 流方諸ルカモロク 乃神ノカミ 多知伊末タチイマ 家志ケシ
 法乎護ノリヲモリ 利未都尊リモツタラシ 流方諸ルカモロク 乃神ノカミ 多知伊末タチイマ 家志ケシ
 利故是以出家人リカレコトモテイヘタイテシヒト 毛白衣モヒロキヌ 相雜アヒミジハリ 天供奉ツカヘマツル
 仁ニ 豈障事アニサハルコト 波不在ハアラジ 止念トオモヒ 奈本忌ナモトイミ 可如カガク
 不忌イミズ 之此シコ 乃大嘗ノオホニヘ 方聞行ハキコシメス 止宣御命ノリタラオホシコト 乎諸ヲモロク
 聞食止宣キコシメサヘ

大新嘗 大嘗と曰く... 猶良比 猶ハ倍字也直會ハテ奈
 保理阿比ホリアヒ 直係チキヒ 齋イヒ 乎ヲ 復タラシ

大嘗比齋神祇令小散齋一月致齋三日と云て義得ふ散齋
 謂仲冬之月自朔至晦致齋謂自丑至卯其辰日以後即
 為散齋と云て大嘗祭式小もかゝり儀式小も致齋三日從丑至
 卯と云し卯日小大嘗宮小御て神小も祭後ハ天皇ハみけりも聞
 令て大嘗比事畢後依て辰日よりハ豊樂院小御て致齋をゆふも
 ろまて後ハ集令て此名之解齋の舞又脫齋服復常おどいふもハ午
 日ハ儀式畢てつゝおとねとも卯日の儀式の終るも致齋の解るおどハ
 日どんどもハ江次第小も辰日朝主水司供解齋御粥と云し
 さて法社の外事小も直令て神系畢て後小行おどさし日どいふも
 ○豊明 豊ハゆゑおどるも明も酒を飲て朝の赤らむも酒宴を
 いふも豊明ハ明坐おどいふ又此次の文小赤丹乃保仁と云し
 小也かへし後そくハ此事記傳ハ二の巻小いなり○常利別仁在とハ

例の大嘗令の時ハ異なり候ふ○御弟子 寺之 徳本小之字なり
 今例小依て補へんて古もさしていふも此天皇ハ古七位
 小出家 豆佛弟子 止成 奴ともいふも御膳をお給へ候ふ
 して天は日嗣乃伊位小昇坐候て神より令もさしていふも
 心もいふもゆゑかゝり候ふも○菩薩 能戒 其儀小菩薩乃
 淨戒と云り○三寶ハホトケと云べし○次 仁云く 三寶を上都
 方と云もて神事を次仁と云もハ佛事此みり況小の惑ひも
 ともいふもいふも○為夜 備ハ禮おどて敬と云く 豆十一位
 謹 美礼比仕奉りとも云く○還 天ハ再御位小復日即候も
 ○安久 於多比 仁侍 天ハ今日の宴令て席小も於多比仁ハ今
 の儀小いふもいふもいふも○二國乃獻 禮 二國の齋郡の内
 小拔穂田としてト定是とも田の稲を拔穂といふ其を持上りて京に齋

場院ふ於て黒紀白紀小醸造て献多し。とるくまの初事なり。あまき
るハ貞観儀式。延喜大嘗祭式なり。とるくまの儀ハ。辰日の儀ハ。辨大
夫就版跪奏。兩國所献。多米都物。色目。其詞云。悠紀ハ供
奉。其國。官姓名等。カ進。雜物。合若干荷。就中献物。黒
木。御酒若干。白木。御酒若干。云々。主基ハ供奉。其國
云々。進。礼事。半。申賜。波久奏。○黒紀白紀。万葉十九。新嘗會
肆宴。天地。久。万。代。都。可。倍。麻。都。良。牟。黒酒
白。酒。手。と。る。色。は。黒。と。白。に。二。種。の。酒。上。代。の。酒。乃。多。く。ま。を。せ。
と。考。依。儀。式。ハ。以。藥。灰。和。御。酒。五。斗。和。内。院。白。黒。二
酒。五。斗。和。大。多。米。院。白。黒。二。酒。と。り。て。藥。灰。と。い。物。ハ。灰。燒。と。て。
此。灰。を。燒。く。役。人。を。て。い。ふ。入。て。燒。け。し。を。件。文。ハ。依。儀。式。ハ。白。灰。と。黒。灰。
酒。ふ。ま。る。と。二。種。を。て。各。其。を。和。ふ。依。て。色。白。と。黒。と。ふ。れ。し。と。り。て。い。ふ。り。也。

るを造る式ハ新嘗會白黒二酒料云其造酒者云其後以又
佐木灰三升和合一甕是称黒貴其一甕不和是称白貴
とつハ其儀式の黒白共灰を和すと異式のみきハ白灰を和すと係る
の酒と申しハ其儀式ハ又中原康富記ハ二酒共醴
酒として白者自其色也黒者上聊振烏麻粉とつハ又後の
事也といふと色とをものし○赤丹乃保仁ハ酒を飲て執色乃
多末倍ハ赤くぬるといふり。を明てし中臣壽詞ハ悠紀主基乃
黒木白木乃大御酒遠云々赤丹乃穗仁所聞食云豊明仁明
御坐云と事ハ又事ハ妻おとどる事。丹穂面又狭丹つと事
いふも執の紅きをいふは曰ド○多末倍ハ赤くぬるといふり。
曰ドハ白くぬるといふは曰ドつと事。食と事ハ今昔ハ赤くぬるといふも物と入らぬ
こと。ほとのひと事ハ赤くぬるといふもいふ。○蕙良使ハ古事記石屋戸使。

法乎云々伊未^{志家} 此法もうちかへして法の神より佛の法を護
 たり。そのまゝのふしやきとていふべきなり。そとて佛も佛を
 上りてこれ地より佛法を上りて道と立家なり。も終くの神より佛を
 きる。佛法を護るは地より佛を護るは地より佛を護るは地より佛を
 もゆやう。神國の人乃んを欺き惑りてはは佛を好むやうなり。と
 偽る。ちかかくあるゆへ。○白衣といふは素衣の人の言。素衣は素衣なり。僧
 にもは人をいひて。推古紀天武紀は俗人天智紀は僧徒天武紀は僧
 尼沙弥及白衣をいひたり。○本忌可如方不忘といふ大嘗會の
 傍尼ハ舊より忌かどとけなも忌とてしそとて大嘗會の
 仕を偽りてたぐふも是なり。なり。
 大まが事申しはもさうなり。

第卅九詔

上件^{カキマヒト}の詔^ハ後^チきて辛巳詔^ガ曰^カく有^タ。

必^{カキマヒト}人^ハ方^チ父^ガ我^カ可^カ多^タ母^ハ我^ガ可^カ多^タ能^ノ親^ナ在^ラ天^ノ成^ル
 物^{モノ}仁^ニ在^リ然^サ王^キ多^タ知^チ藤^{フヂ}原^{ハラ}朝^{アソ}臣^ニ等^{タチ}止^ト朕^{アガ}親^ウ仁^ニ
 在^{アル}我^ガ故^コ仁^ニ黑^ク紀^キ白^{シロ}紀^キ乃^ノ御^ミ酒^キ賜^{タマヒ}御^ミ手^テ物^{モノ}賜^{タマヒ}
 止^ト方^ハ久^ク宣^{ノリ}宣^ス

成とハ生あるをいつてもゆへに親在るは父と母と在るといふをわら
 せしむるは親族のよふつきその詔うがなふ親とハ詔あつたべし。又
 成と成長をいつてもゆへに親在天を父方母方の親族お助きて養育す

ことや又ふ不^レ止^レと^レ書^レし^レも^レみ^レし^レ。○王知^ス八^ノ大^ノ父^ノ方^ノの^レ後^ニ親^ヲを^レり。○藤
 原朝臣等八^ノ大^ノ母^ノ余^ノの^レ後^ニ親^ヲを^レり。○御手物^ノ身^ノ五^ノ指^ノ不^レ出^ル手^ノ字^ノ不^レ知^ル
 乎^レ不^レ深^ク今^ハ一^本不^レ能^クよ^クこ^ト大^ノ嘗^ニ今^ハ不^レ知^ルく^レも^レ不^レ能^クの^レゆ^ニ也^シ
 を^レ以^テ別^ニ給^フ賜^ス也^シ。

第四十詔

廿七^日以^テ卷^ノ小^ノ同^ノ二^年春^ノ正月^ノ甲^子詔^曰と^云ふ

今^ハ勅^ス久^ク掛^ク畏^ル岐^ノ淡^ノ海^ノ乃^チ大^ノ津^ノ宮^ノ仁^ニ天^ノ下^ノ所^ニ
 知^ル行^ハ之^レ天^ノ皇^ノ我^ガ御^ニ世^ニ尔^ニ奉^ル侍^ル未^ダ之^レ藤^ノ原^ノ大^ノ
 臣^ノ復^ス後^ニ乃^チ藤^ノ原^ノ大^ノ臣^ノ尔^ニ賜^ス天^ノ在^ル留^ル志^ノ乃^チ比^ビ
イマノリタマハクカクモカシヨ
シメシシスメラガニヨニツカヘツリ
オミニタノチフチハラノオホオミニタミテ
オミニタノチフチハラノオホオミニタミテ

已^ハ止^ル乃^チ書^ル尔^ニ勅^ス天^ノ在^ル久^ク子^ノ孫^ノ乃^チ淨^ク久^ク明^ク伎^ヲ
 心^ヲ乎^レ以^テ天^ノ朝^ノ庭^ニ尔^ニ奉^ル侍^ル必^ズ治^ル賜^ス其^ノ
 方^ニ絶^ス不^レ賜^ス止^ル勅^ス天^ノ在^ル我^ノ故^ニ尔^ニ今^ハ藤^ノ原^ノ永^ク
 手^ノ朝^ノ臣^ノ尔^ニ右^ノ大^ノ臣^ノ之^レ官^ニ授^ク賜^ス止^ル勅^ス天^ノ皇^ノ御^ニ
 命^ヲ乎^レ諸^ノ聞^ク食^ル止^ル宣^ス
コトノフミニノリテアラクウミノコノキヨクアカキ
コノヲモナテミカバニソカヘツラムヲカサヨサメタニハ
ツギハタニタマハシトノリテアカクユエニイニフチハラノ
テノアンニニミギノオホオミノツカサラサチタニフ
ミコトヲモロクキコシメタトノル

淡海乃^チ一^本不^レ淡^クの上^ニ近^ク字^ヲ乃^チ。○奉^ル侍^ル末^ニ之^レ下^ノ之^レ字^ヲ不^レ引^クと^云ふ
 臣^ノ不^レ深^ク今^ハ改^ム○藤^ノ原^ノ大^ノ臣^ノ八^ノ鎌^ノ足^ノ公^ノ也^シ○後^ニ乃^チ藤^ノ原^ノ大^ノ臣^ノ不^レ
 比^ビ等^ノ公^ノ也^シ○志^ノ乃^チ比^ビ已^ハ止^ル乃^チ書^ルハ^ハキキ紀^ノ敏^ノ達^ノ也^シより^テ未^ダ知^ル事^ヲと^云ふ^レ謀^ル

をシゴトクテミルし訓は乞。此字累舉其平生實行為誄而定其謚以稱之也。まゝ哀死而述其行之辭也。如_レ皇國の志の_レハ_レ何_レも_レを_レ推古_レ紀_レ小_レ改葬皇太夫人堅塩媛於檜隈大陵是日誄於輕街第一河倍内臣鳥誄天皇之命則奠靈明器明衣之類万五千種也。第二諸皇子等以次第各誄之。第三中臣宮地連鳥摩侶誄大臣之辭。第四大臣引率八腹臣等便以境部臣摩理勢令誄氏姓之本矣。時人云摩理勢勢鳥摩侶二人能誄唯鳥臣不能誄也。皇極紀小初發息長足日廣額天皇喪是日小德巨勢臣德太代大派皇子而誄。次小德粟田臣細目代輕皇子而誄。次小德大伴連馬飼代大臣而誄。乙未息長山田公奉誄日嗣天武紀小天皇病遂不差崩于正宮云。是日肇進奠師

誄之。第一大海宿祢菟蒲誄壬生事。次淨大肆伊勢王誄諸王事。次直大參縣大養宿祢大伴摠誄官内事。次淨廣肆河内王誄左右大舍人事。次直大參當摩真人國見誄左右兵衛事。次直大肆采女朝臣菟羅誄内命婦事。次直廣肆紀朝臣真人誄膳職事。乙丑諸僧尼亦哭於殯庭。是日直大參布勢朝臣御主人誄太政官事。次直廣參石上朝臣麻呂誄法官事。次直大肆大三輪朝臣高市麻呂誄理官事。次直廣參大伴宿祢安麻呂誄大藏事。次直大肆藤原朝臣大嶋誄兵政官事。丙寅僧尼亦發哀。是日直廣肆河倍久努朝臣麻呂誄刑官事。次直廣肆紀朝臣弓張誄民官事。次直廣肆穗積朝臣虫麻呂誄諸國司事。次大隅阿多隼人及倭河内馬飼部造各誄之。丁卯僧尼發哀

之。是日百濟王良賈代百濟王善光而誅之。次國造等
 隨參赴各誅之。仍奏種々歌舞持統紀事。皇太子率公卿
 百寮人等與諸蕃賓客隨宿宮而慟哭焉。於是奉奠奏楯
 節儺。諸臣各奉己先祖等所仕狀。迺進誄焉。己未。蝦夷百
 九十餘人負荷調賦而誄焉。乙丑。布勢朝臣御主人大伴
 宿禰御行。迺進誄。直廣肆當麻真人智德奉誄皇祖等之
 騰極。古云日次第禮也。畢葬于大内陵。武天皇の御陵
なり。此紀二。在大臣正二位多治比真人嶋薨云。正五
位下路真人大人為公卿之誄。從七位下。毛野朝臣石
代為百官之誄。三小。從四位上當麻真人智德率誄人奉
誄。謚曰倭根子豐祖父。天皇即日火葬於飛鳥岡。武
武天皇の崩の時。七小。七大臣正二位石上朝臣麻呂薨云

云。右少辨從五位上上。毛野朝臣廣人。為太政官之誄。式
 部少辨正五位下穗積朝臣老。為五位己上之誄。兵部大
 丞正六位上當麻真人東人。為六位己下之誄。十九小。正
 四位下安宿王率誄人奉誄。謚曰千尋葛藤高知。天宮姫
 之尊。是日。火葬於佐保山陵。天宮太后後孫。官子於薨乃。時
あり。正六小。正三位藤原朝臣小黒麻呂率誄人奉誄。上尊
謚曰天宗高紹。天皇庚申。葬於廣岡山陵。正八小。仁天皇
四十小。中納言正三位藤原朝臣小黒麻呂率誄人奉誄。上
謚曰天高知。日之子。姫尊。正八小。桓武天皇母。高野氏。あり。
ま。參議左大辨正四位上紀朝臣古佐美率誄人奉誄。
謚曰天之高藤廣宗照。姫之尊。正八小。桓武天皇母。高野氏。あり。
漏し。ま。上。件。書紀。事。誄。の。り。次。記。さ。し。ま。り。武。儀。式。又。是。詞。さ。ま

紀す。凡、人、死、亡、之、時、云、く、或、為、亡、人、斷、髮、剃、股、而、誄、如、此、
舊俗一皆悉断 といふまじき人もの事、はたまた多くて誄にせし
志 志、乃、後、志、乃、夫、といふていふ言、百、其、志、志、奴、此、志、奴、布、の、い、ち、り
志 志、乃、後、志、乃、夫、といふていふ言、百、其、志、志、奴、此、志、奴、布、の、い、ち、り
志 志、乃、後、志、乃、夫、といふていふ言、百、其、志、志、奴、此、志、奴、布、の、い、ち、り
志 志、乃、後、志、乃、夫、といふていふ言、百、其、志、志、奴、此、志、奴、布、の、い、ち、り

○勅天在、我故、ふ、かの賜了、誄おし、我、字、一本、小、利、と、他、は、わ、ち、り、。○永
 手、朝、臣、は、ち、り、八、五、十、二、乃、是、お、り、志、り、。○右、大、臣、之、官、授、賜、此、后、八
 次、り、以、大、納、言、從、二、位、藤、原、朝、臣、永、手、為、右、大、臣、と、あり、
 ○御命、乎、乎、字、一、本、小、利、と、遠、と、作、り、。

第四十一詔

同年冬十月壬寅奉、諸、隅、寺、毘、沙、門、像、所、現、舎、利、於、法、華、
 簡、點、氏、々、年、高、然、有、容、顔、者、五、位、已、上、二、十、三、人、六、位、已
 下、一、百、七、十、七、人、捧、持、種、々、幡、蓋、行、列、前、後、其、所、著、衣、服、
 金、銀、朱、紫、者、悉、聽、之、詔、百、官、主、典、已、上、礼、拜、詔、曰、と、隅、
 寺、本、小、脇、寺、と、い、ち、り、今、一、本、又、一、本、小、脇、寺、と、い、ち、り、元、亨、釋、書、も、隅、寺、と、記、し、
 此、亦、今、も、奈、良、の、法、華、寺、近、き、所、小、隅、寺、と、て、い、ち、り、そ、も、形、も、べ、く、は、美、ま、り

華滅罪之寺と号を給ふ。奈良のを京師のは華滅罪寺也。

今勅久無上岐佛乃御法波至誠心乎以
 天拜尊備獻必異奇驗乎阿良波之授
 賜物尔伊末利家然今示現賜流如來乃
 尊岐大御舍利波常奉見余利大御色毛
 光照天甚美久大御形毛圓滿天別好久
 光 照 天 甚 美 久 大 御 形 毛 圓 滿 天 別 好 久

大末之波末世特尔父須之久奇事乎思議
 許極難之是以意中尔晝毛夜毛倦怠已
 無父謹美禮比仕奉都侍利是實尔化能
 大御身波縁尔隨天度導賜波時乎不過
 行尔相應天慈備救賜止云言尔在良之
 毛念須猶之法乎興隆尔之流人尔依天
 繼比吕流物尔在故諸乃大法師等乎比

岐^キ爲^キ天^テ上^{カニ}止^ト伊^イ麻^マ須^ス太^{オホ}政^{ワリ}大^{コト}臣^{オホ}禪^{オホ}師^{オホ}乃^{オホ}如^{オホ}
 理^{コト}久^ク勸^ク行^ス波^ハ之^シ教^ヲ導^ヘ賜^ヒ爾^ニ依^{ヨリ}天^テ如^カ此^ク久^ク奇^ク
 久^ク尊^{タト}岐^キ驗^シ波^ハ顯^シ賜^ヒ幣^ハ然^ラ此^コ乃^ノ尊^{タト}久^ク宇^ウ禮^レ志^シ
 岐^キ事^{コト}乎^ハ朕^{アレ}獨^ヒ乃^ノ味^ミ喜^ヨ止^ト念^オ天^テ奈^ナ太^{オホ}政^{ワリ}大^{コト}臣^{オホ}
 朕^{アガ}大^{ダイ}師^シ尔^ニ法^{ホウ}王^{ワウ}乃^ノ位^{クニ}授^{サツ}未^ミ都^ツ止^ト良^ラ勅^{ノリ}天^{スメ}皇^{ラガ}御^ホ
 命^ミ乎^ハ諸^{モロ}聞^ク食^キ止^ト宣^{ノル}復^{マタ}勅^{ノリ}久^ク此^コ乃^ノ世^{ヨノ}間^{ナカ}乃^ノ位^{クニ}
 波^ハ乎^ハ樂^レ求^ム布^フ多^タ事^{コト}波^ハ都^{カツ}天^テ無^{ナク}一^ヒ道^{タミナ}尔^ニ志^{コト}天^テ菩^ボ薩^{サチ}

乃^ノ行^{キヤ}乎^ハ修^{オコ}比^ヒ人^{ヒト}乎^ハ度^{ワタシ}導^{ミチ}止^ト云^{イフ}尔^ニ心^{ココロ}波^ハ定^{サダ}天^テ
 伊^イ末^マ須^ス可^カ久^ク止^ト波^ハ阿^ア礼^レ猶^{ナホ}朕^ア我^ガ敬^{ヤセ}報^{ヒム}未^ミ川^ツ和^ワ
 佐^サ止^ト之^シ天^テ此^コ乃^ノ位^{クニ}冠^{カウ}乎^ハ授^{サツ}未^ミ川^ツ良^ラ勅^{ノリ}天^{スメ}皇^ラ
 我^ガ御^{オホ}命^{ミコト}乎^ハ諸^{モロ}聞^ク食^キ止^ト宣^{ノル}次^{ツギ}尔^ニ諸^{モロ}大^{ダイ}法^{ホウ}師^シ可^カ
 中^{ナカ}仁^ニ此^{コノ}二^{フタ}禪^ジ師^シ等^{タチ}伊^イ同^{オヤ}心^{シココロ}乎^ハ以^{モチ}天^テ相^{アヒ}從^{シタガヒ}道^{ミチ}
 乎^ハ志^{コト}天^テ世^{ヨノ}間^{ナカ}乃^ノ位^{クニ}冠^{カウ}波^ハ不^ネ樂^{ガハス}伊^イ末^マ佐^サ倍^ヘ止^ト
 猶^{ナホ}不^{ヤム}得^{コト}止^ズ天^テ圓^{エム}興^{コウ}禪^{ゼム}師^シ尔^ニ法^{ホウ}臣^{シムノ}位^{クニ}授^{サツ}未^ミ都^ツ

○詔詞解五

〇七

基^キ眞^{シム}禪^{ゼム}師^ジ 亦^ニ法^ホ參^リ議^{ゴト}大^ト律^リ師^シ 止^ト之^シ冠^カ波^{フリ}正^ハ
キシムゼムジニノリホツリゴトトビトダイリシトシカフリハオホキ
 四^{ヨツ}位^ク上^キ乎^シ授^{サツ}氣^ケ復^マ物^タ部^{モノ}淨^ベ之^ノ朝^ア臣^ソ止^ト云^イ姓^フ
ヨツククキノカミシチヲサツケケマタモノベノキヨアシミトイフカネ
 乎^ヲ授^{サツ}末^メ川^ツ勅^ノ天^リ皇^タ我^ガ御^オ命^ホ乎^ヲ諸^モ聞^{ロク}食^キ止^ト宣^ノ
サツケメツノリタラスメラガオホミコトヲモロクキヨシメサヘトノル
 復^マ勅^ノ久^ク此^コ寺^ノ方^ハ朕^ア外^ハ祖^カ父^タ先^サ乃^ノ太^オ政^ホ大^ト臣^シ
マタノリタバクコノテラハアガハカタノオホチサキノオホツリゴトノオホオミ
 藤^フ原^チ大^ハ臣^ラ之^ノ家^イ仁^ニ在^{アリ}今^イ其^ソ家^ノ之^ノ名^ナ乎^ヲ繼^ツ天^テ
フチハラノオホオミノイヘアリイソノイヘノナヲツギテ
 明^ア可^カ淨^キ伎^キ心^コ乎^ヲ以^モ天^テ朝^ミ廷^カ乎^ヲ奉^タ助^ス理^リ仕^ツ奉^カ
アキラカキヨキコノヲモチテミカトヲタスケツツカヘツ
 流^ル右^ミ大^キ臣^ノ藤^フ原^チ朝^ハ臣^ラ乃^ノ位^ク授^{サツ}賜^{タマ}
ミギノオホオミフチハラノアソミバ速ヒタリノオホオミクランサツタマ

比^ヒ治^ツ賜^サ復^マ吉^キ備^ビ朝^ア臣^ソ波^ハ朕^ア我^ガ太^ヒ子^ツ等^ト坐^マ之^シ
フサメタマフマタキビノアソミハアガヒツギノミコトマシ
 時^ト余^ヨ師^シ止^ト之^シ教^ヲ悟^ヘ家^ケ多^ア乃^ノ年^ト歷^ヘ奴^ヌ今^イ方^ハ身^ニ
トキヨシニ止シテフシヘサトシケアタノトシヘヌイマハニ
 毛^モ不^ア敢^ヘ阿^ア流^ル物^{モノ}乎^ヲ夜^ヨ晝^ヒ不^マ退^カ之^シ護^モ助^リ奉^タ侍^ル
アヘスアラ流モノヲヨルヒルマカラズ之シモリタスケツカヘマツル
 乎^ヲ見^ミ禮^レ可^カ多^タ自^ジ氣^ケ奈^ナ弥^ミ奈^ナ念^オ須^ス然^シ人^ニ止^ト之^シ
ヲミレカタジケナミオホスシカレト止シ
 恩^メ乎^ヲ不^シ知^ズ恩^メ乎^ヲ不^ム報^イ波^ハ奴^ヌ乎^ヲ聖^ヒ乃^ノ御^オ法^ホ仁^ニ禁^イ
メクミヲシラズメクミヲムクイバヌヲヒジリノミホリニイサメ
 給^タ幣^ヘ物^{モノ}仁^ニ在^{アリ}是^コ以^モ天^テ吉^キ備^ビ朝^ア臣^ソ仁^ニ右^ミ大^キ臣^ラ
タメヘモノアリコハフモテキビノアソミニミギノオホオミ
 之^ノ位^ク授^{サツ}賜^{タマ}止^ト勅^ノ布^フ天^ス皇^メ我^ガ御^オ命^ホ乎^ヲ諸^モ聞^{ロク}食^キ
クランサツタマフトノリタマフスメラガオホミコトヲモロクキヨシメサヘ

○詔詞解五

○九八

止ト
宣ル

無上ハ佛言はるる。○至誠ハ推古紀ハネムコロト訓とぞ。弘吉
のつひはねと喜ふ。清つ中。訓あり。バフカキコト好む。○献禮。そま
て。優て。ふま。ふ。献字ハとづし。○必。ふ心ふ。候。今ハ一本。ふ。依。○異奇
四十二。弘。ふ。甚奇。久。異。尔。麗。岐。ま。美。異。ま。奇。異。好。と。此。下。文
ふ。久。須。之。久。奇。事。と。有。○如来。乃。尊。岐。大。御。舍利。岐。字。一。本。り
波。ふ。信。と。り。此。翌。日。癸。卯。日。の。漢。文。詔。ふ。も。因。有。靈。示。絨。器。候。遂。則。舍
利。三。粒。見。於。絨。器。と。つ。ふ。ら。く。と。又。別。の。事。と。く。ふ。も。ゆ。ふ。と。と。と。程
一。つ。事。好。と。べ。し。ま。を。舍利。と。い。ふ。也。或。佛。也。此。物。乃。是。戒。定。慧。思
行。功。徳。熏。成。也。梵。語。設。利。羅。今。訛。畧。称。舍利。華。言。骨。身。所
以。不。譚。者。恐。濫。凡。夫。骨。身。故。也。又。云。馱。都。此。目。不。壞。義。有

二種舍利。一。全身。二。碎身。碎身。有。三。一。骨舍利。白色。二。肉
舍利。紅色。三。髮舍利。黑色。惟佛舍利。五色。有。神。變。一。切。物
不。能。壞。焉。と。い。り。○甚。美。久。字。本。ふ。之。小。誤。二。本。ふ。三。小。誤。今。改
○圓。滿。ハ。弘。吉。は。な。ま。ま。ラ。ハ。レ。と。訓。べ。し。万。葉。二。本。滿。將。行。神。乃。御。面。跡
九。り。望。月。之。滿。有。面。輪。二。こ。ら。く。を。三。チ。ミ。テ。ル。と。訓。ハ。非。之。面。足。を。み
ど。中。の。名。を。見。ふ。と。ル。と。訓。べ。し。師。の。い。れ。も。か。ぶ。と。○大。未。之。波。末。世
世。字。下。本。ふ。泄。と。傳。ら。る。今。ハ。一。本。又。一。本。ふ。依。○久。須。之。久。は。な。ま。ま。と。と
く。ま。く。も。も。り。と。も。い。り。奇。事。好。と。有。り。○思。議。許。極。難。之。佛
也。不。可。思。議。不。思。議。と。い。ふ。○ふ。い。り。極。ハ。な。ま。ま。ハ。キ。ハ。メ。テ。と。訓
と。と。と。三。本。極。貴。物。者。酒。西。有。良。之。こ。の。訓。と。い。ふ。と。此。言。至。て。と。ふ
と。い。ふ。と。も。も。り。と。も。い。り。○化。能。ハ。加。聖。乃。と。訓。べ。し。佛。言。ハ
權。化。と。い。ふ。也。佛。の。權。化。世。の。理。と。も。い。ふ。也。化。身。○度。ハ。ワ。タ

シと列べし。依多不濟度と云ふは。佛見石。あふ毛呂毛呂須久比。
和多志多麻波奈。○應天ハガナヘテと列べし。又ユタヘテも列べし。
○云言ハ。つ物といふは。言ハ。信まじ。○猶之ハ。助。萬事。亦
奈保之。祿可比。都。ゆき。海。籍。列ふも。かく。列ふも。○人。亦。依。天
を。人の。徳。弘。む。お。信。て。自。陸。ゆ。り。○大法師ハ。法。師。位。と。あ
る。も。あ。い。つ。が。あ。り。○上。止。伊。麻。須。ハ。長。く。法。師。位。長。官。を。み。加
美。とい。ひ。長。子。成。この。か。と。い。ふ。か。り。日。ト。○教導。教。字。一。本。不。敬。と。依。ハ
信。○依。天。本。不。敬。之。字。な。り。今。一。本。不。依。○獨。夜。味。夜。ハ。や。い。の。ま
あり。○法王。佛。法。正。法。を。以。て。國。を。治。む。王。を。法。王。と。い。ふ。と。い。つ。あ。り
つ。今。此。号。ハ。そ。も。不。し。を。結。つ。う。又。法。師。ある。王。と。い。ふ。と。い。つ。と。あ。り
き。皇。胤。お。つ。う。さ。り。王。と。い。ふ。号。以。授。法。師。と。い。ふ。代。り。り。あ。り
お。く。理。お。も。む。き。と。い。み。り。ん。ち。ま。か。と。い。し。同。月。乙。己。詔。法。王。月

料。准。供。御。云。神護景雲元年三月置法王官。職。以。造。官
卿。但。馬。守。從。三。位。高。麗。朝。臣。福。信。為。兼。大。夫。云。同。三。年
正月庚午朔壬申。法王道鏡居西宮前殿。大臣已下賀拜。
道鏡自告壽詞。丙子御。法王宮。宴五位已上。道鏡與五位
已上。摺衣人。一領。蝦夷。緋。袍。人。一領。云。○都。天。ハ。カ。ツ。テ。と
列。べ。し。多。葉。口。花。勝。見。都。毛。不。知。恋。裳。摺。可。聞。十。三。小。恋。云。物
者。都。不。止。來。○一。道。志。天。万。葉。十。一。小。か。あ。り。お。物。を。あ。ら。せ。り
と。人の。打。墨。繩。之。直。一。道。二。小。か。あ。り。お。物。を。あ。ら。せ。り。と。い。ふ。は。り。
一。本。か。も。志。天。の。二。字。あ。り。○修。比。比。本。本。此。小。強。今。一。本。に。依。る。○敬
報。末。川。本。お。川。字。津。と。作。是。今。一。本。又。一。本。不。依。上。太。政。大。臣。禪。師
乃。如。理。久。云。と。い。ふ。と。い。ふ。不。報。あ。り。○授。末。川。長。川。字。本。お
津。と。信。今。一。本。又。一。本。不。依。○此。二。禪。師。と。ハ。次。小。あ。り。二。人。を。さ。し。て。い

禪師といふ号たり。其後おつり。伊字一本お何と仰ふ。後のさかへり。おは
こゝ。○勸行波米。勸字ハ勤を借り。おるべし。此も亦つべし。を漏と
承なり。つゝおつり。○同心を道鏡とす。○伊末佐倍止ハ坐せしむ。
世を延て佐倍といふ。まて止ト奈毛といふ。おるべし。○授末都都
字一本お六川と仰り。○法参議。和名おふ。参議於保万豆利古止
比。止とつる。依て判り。又喜お達てもまてし。○正四位上云々。これより先
九月お授。修行進守大禪師基真正五位上。とつらき。まてし。僧
お位階を賜ひ。姓を賜ふ。いもく。まてし。いもく。おき。まてし。と
て此基まてし。上おまてし。圓興を。位を。姓を。賜ふ。おく。まてし。基まてし
の。賜ふ。おる。まてし。後此二人の。おし。まてし。下おつり。○授末川末字
お津と仰り。今一本又一本お依。○此寺ハ法美とす。○外祖父。和名
おふ。母方乃於保知とす。於保知ハ大父のいひ。○先太政大臣ハ不

比等公。先も故といふ。おとす。○家仁在。家おり。おは。おる。おは。おる。
ゆを。つら。○家之名。上お家。家宅をいひ。此家ハ氏門をいひ。名を職
業とす。○右大臣ハ永手公。○吉備朝臣ハ真吉備公。此公おる。十一
後おつり。○坐。一本おハ。坐と仰り。○師ハ美布美与美と判り。應
神紀ハ阿直岐亦能讀。經典即太子菟道稚郎子師焉。○教悟
教字。一本お敬と仰り。○今方身。毛云々。宝龜六年。應坐依時。八十三也。
おる。此身ハ。七十也。おは。おは。○奉侍。手。手字。一本お遠と仰り。○可多
自氣奈。弥。弥字。一本お弘と仰り。○聖乃御法ハ。佛法をいひ。○圓興
基真二人の。おし。天平宝字八年十一月。法臣圓興。其弟中
衛將監從五位下。賀茂朝臣田守等云々。とつら。○圓興
茂。おは。氏。法臣とつら。後お賜ふ。位を。前へ。おは。おは。して記さる。おは。や。
まて。天平神護二年七月。以中律師圓興。為大僧都。同辛九

ヤマトノクニニオホシテオホヤシマクニテラレタマヒ
 日本國ヤマトノクニニ坐オホシテ天オホヤシマクニ大八洲國照給比治給布
 ヤマトネコスメラガオホミコトヲ良麻イリタマフ勅布御命手衆
 倭根子天皇我御命止止ト良麻イリタマフ勅布御命手衆
 モロキヨシメサヘトノルコトシノミナツキノトヲマリムカノヒンサルノトキニ
 諸聞食止宣今年乃六月十六日申時仁
 タツミノスミニアタリテイトクスキクコトニウハレキクモナ
 東南之角尔當天甚奇久異尔麗岐雲七
 イロアヒニヅリテタチノホリテアリコトヲアレミツカラモ見行ハシ
 色相交天立登天在此乎朕自毛見行之
 マタサモラモロノヒトドモモトモニテアヤシビヨロコ都備都アルアヒダ
 又侍諸人等毛共見天怪備喜都備都在間
 仁イセノクニノカミヒロキイノクニノシモチアベノアンニアツマヒトラ
 伊勢國守從五位下阿倍朝臣東人等

カニサクニナツキノトヲマリムカノヒニワタラヒノコホリノトユケ
 我奏久六月十七日尔度會郡乃等由氣
 ノミマノウヘニアタリテイツイロノアヤシキクモタチオホヒテアリコレニ
 乃宮乃上仁當天五色瑞雲起覆天在依
 ヨリテソノカタヲカキウツヒテタニツカトミツセリニタオムヤウノツカサ
 此天彼形乎書寫以進止奏利復陰陽寮
 モフミツキノトヲマリイツカノヒニイヌキノスミニウハレタコトナルクモタチテ
 毛七月十五日尔西北角尔美異雲立天
 アリオナシキツキノハツカマリユカノヒニタツミノスミニアルクモモトアケニ
 在同月二十三日仁東南角仁有雲本朱
 スエキニヤ、イツイロランナヘツトニツセリカククモトナルクモ乃
 末黄稍具五色止奏利如是久奇異雲乃
 アラハレク流所由乎令勘尔式部省等我奏久
 顯在流所由乎令勘尔式部省等我奏久

瑞書スキシヨ 爾ニ 細勘ウシカカカレ 尔ニ 是即景雲コレスチケイウム 尔ニ 在實合大瑞アリコトニダイズキニアヘリ
 奏ソウ 利セ 然朕念行シカルニアガオホシメサ 久ク 如是カ 久ク 大仁貴オホキニタフトク 久ク 奇クダラ
 異コト 尔ニ 在大瑞波アルオホキミルシハ 聖皇之御世ヒツリノスメラガ 尔ニ 至德ニイタルミウツクニ 尔ニ 感カマケ
 天テ 天地アメツチ 乃ノ 示現アラハ 之賜物シタフモノ 毛モ 止ト 奈ナ 常ツネ 毛モ 聞行キコシメ 須ス
 是コレ 豈敢朕德アニアテアカウツクニ 伊イ 天地アメツチ 乃ノ 御心ミココロ 乎ヲ 令感動ウケカシ 未ミ
 流レ 倍ベ 事コト 波ハ 無ナレ 止ト 奈ナ 念行オモホシメ 須ス 然シカルニ 此コ 方ハ 大御神オホミカミ 乃ノ 慈メ 備ビ 示シ
 岐キ 流レ 倍ベ 事コト 波ハ 無ナレ 止ト 奈ナ 念行オモホシメ 須ス 然シカルニ 此コ 方ハ 大御神オホミカミ 乃ノ 慈メ 備ビ 示シ
 宮上ミヤノウヘ 尔ニ 示顯給故尚是方大神乃慈備示アラハシタフカレナホコハオホミカミニメゲビシ

給幣タマヘ 物モノ 犁ナ 又掛マタカケ 毛モ 畏カシコ 岐キ 御世ミヨ 御世ミヨ 乃ノ 先サキ 乃ノ
 皇我御靈スメラガミタマ 乃ノ 助給タスケタマ 比ヒ 慈給メグミタマ 流幣リウヘイ 物モノ 犁ナ 復去正タテイシ
 月ツキ 尔ニ 二七日ニヌカ 之間ノ 諸大寺モロクノオホニ 乃ノ 大法師等ホウシタチ 乎ヲ
 奉請ホウセツ 良倍ラヘ 最勝王經サイソウワウキヤウ 乎ヲ 令講讀カウククセシメ 未都又吉ミトクキチ
 祥天シヤウテム 乃ノ 悔過クワ 乎ヲ 令仕奉ツカヘツラレム 流リウ 諸大法師等モロクノダイホウシタチ 我ガ
 如理コトワリノコト 久ク 勤ツトメ 天テ 坐イ 比ヒ 又諸臣等マタモロクノオミタチ 乃ノ 天下アマノタ 乃ノ 政シ
 事コト 乎ヲ 合理コトワリノコト 天テ 奉仕ツカヘツル 尔ニ 依ヨリ 之三寶ホトケ 毛モ 諸天シヨテム 毛モ

○詔詞解五

○四

天地乃神多知共示現賜流奇貴伎
ツチノカミタカトモニアラハレタヘクダフトキ
 大瑞乃雲尔在良之止念行須故是以奇
オホキレシノクモニアルラシトオモホシメカレコトモテクスシ
 久喜之大瑞遠頂尔受給天忍天默在去
クウレシオホキレシヲタキニウチタハリテシラビテナホアル
 不得之天諸王知多知召天共尔歡備
エズシテオホキキヲオホキヲタカカシメテトモヨロコビ
 尊備天地乃御恩乎奉報倍之止念行止
タラトビアメツチノミウツクニハクイニツルベシオモホシメスト
 詔布天皇我御命遠諸聞食止宣然夫天
イリクニフスメラガオホミコトヲモクキコシメサヘンルサテ
 方萬物乎能覆養賜比慈備愍美賜物仁
ハヨソモノヲヨクオホヒヤヒヒタメニメグビアハレミタニフモノニ

坐須イニス又大神宮乃禰宜大物忌内人
ニタオホミカミノミヤノネギオホモノイミウチビト
 等叙二級但御巫以下人等叙一級又
ドモニフタレシナタニフタジシミカムコヨリシモツカタノヒトドモニヒトシナタニフマタ
 伊勢國神郡二郡司及諸國祝部有位無
イセノクニノカムコホリヲタホリクコホノツカサオヨビクニグノハフリウキ
 位等賜一級又六位以下及左右京男女
キドモニトシナタニフニタムツタタ年ヨリシモツカタオヨビヒタリミギリノミサトフコソフシチ
 年六十以上賜一級但正六位上依例賜
トムッチヨリカミツカタナルニヒトシナタニフタジシオホキムツククニウケルハアトニヨリアモリ
 物其正六位下重三選以上者賜上者正
タニラソノオホキムツククニウケルニシモツナサセムヨリウヘヲカサネタルモノハジヤウナルモノニオホキムツク
 六位上又孝子順孫義夫孝婦節婦力田
クニカミツクニウケラニタケウシガムソムギブケウフセフリキテム

者賜二級表旗其門至于終身田租免給
 又五位以上人等賜御手物又天下諸國
 今年田租半免又八十以上老人及鰥寡
 孤獨不能自存者賜粉又示顯賜流瑞
 年號改賜布是以改天平神護三
 年為神護景雲元年止詔布天皇我御命
 諸聞食止宣

日本國といふ畿内の大和に於て。○照給此神代紀より須佐之男
 會於天照大神於此所也。請神照臨天國自可平安崇神
 紀ふ詔曰。惟我皇祖諸天皇光臨宸極。三代實録此八
 詔。朕我食國乎平安久安。天照之治。聞食須故波云々。
 ○東南之角。是て東南なるものを辰巳西北の角戌亥なりといふは
 と澤草なり。ハ。海をいふ。古きこと。ヤ。ハ。あまみやこは。あまのねとよ。あ
 り。ま。を。隅を角と云ふ。ハ。事。遠。也。ま。は。あまの角田川と云ふ。但。ハ。彼。ハ。ツ。又。タ。三。
 き。ご。ら。り。は。角。か。が。電。隅。と。云。ふ。○阿倍朝臣ハ。姓氏縁ふ。孝元天
 皇。皇子。大彥命。之後也。○東人も誰が子ふ。考へる。天平宝字
 八事。小。道。之。位。下。の。叙。し。て。後。中。勢。之。備。之。内。之。備。大。部。大。備。を。是。も。刑。於
 大。捕。刑。部。之。位。ふ。但。ハ。位。も。是。也。位。と。云。て。は。後。々。々。也。○等由氣乃
 宮。乃。上。仁。伊。勢。の。大神宮雜事記といふ事。天平神護三年。丙午

七月七日。自午時迄于未二點。仁。五色雲立天。天照坐皇
 大神宮鎮坐。須。即宇治。五十鈴河上。乃宇治山之峯頂。仁
 懸。連。即祇宜内人等。注。具狀。申。於官司。即官司水通録。子
 細。言。上。神祇官。隨即官奏。仍。神祇官陰陽寮。寺勘。申。云。奉
 為公家。又為天下。甚。宸嘉之瑞。想也。都。云。く。いつ。ハ。月。日。も。地
 と。遠。へ。ま。つ。つ。○。陰陽寮。和名。抄。小。於。半。夜。宇。乃。豆。加。佐。と。り。り。て。判
 と。わ。り。職。負。令。小。陰陽寮。頭。一。人。掌。天文。曆。數。風。雲。氣。色。奏
 聞。事。云。云。○。七月十五日。午。申。又。一。本。少。五。字。たり。一。本。又。の。一。本。類
 聚。史。史。あ。ふ。依。○。本。朱。云。云。本。と。ハ。足。て。う。あ。の。下。は。方。と。い。ひ。末。と。ハ。上。の。方。と
 い。う。し。か。が。そ。の。朱。と。黄。と。の。う。ち。ふ。や。ま。き。ま。さ。る。ら。ば。さ。さ。ら。ば。ま。ま。と
 う。ま。え。し。○。式。部。省。等。職。負。令。を。考。へ。式。部。省。ハ。が。事。以。掌。係。う。一
 と。そ。を。治。部。省。卿。一。人。掌。云。云。祥瑞。云。云。事。と。り。て。近。喜。式。小。も。

祥瑞の事ハ治部省式小出より。さうと。ハ。式。字。ハ。治。を。信。じ。し。今。ハ。和。の。め。か
 小。治。部。省。平。佐。年。留。都。加。佐。と。い。ふ。依。て。判。つ。た。り。等。と。ハ。卿。ま。と。大。輔。少
 輔。ま。と。い。ふ。べ。し。○。景。雲。治。部。省。式。祥。瑞。の。大。瑞。の。中。ハ。慶。雲。と
 い。ふ。も。て。狀。若。烟。非。烟。若。雲。非。雲。と。注。せ。り。ま。て。慶。雲。を。景。雲。と。い。ふ。こ
 と。ハ。物。小。足。え。さ。れ。ば。慶。雲。と。い。ふ。事。ハ。既。小。先。小。を。か。け。交。の。ハ。字。を。易。て
 景。星。小。お。ろ。し。て。景。字。を。ハ。用。ひ。し。ま。さ。る。べ。し。な。ら。ば。も。あ。ら。ず。お。ろ。り。
 ○。合。大。瑞。瑞。書。小。大。瑞。上。瑞。中。瑞。下。瑞。と。い。ふ。も。の。大。瑞。の。中。ハ。慶
 雲。小。合。つ。つ。り。合。字。本。小。令。小。係。今。ハ。一。本。小。係。○。感。ハ。加。麻。氣。と。訓。べ。し。を
 極。紀。小。か。く。よ。り。百。葉。十。六。小。に。い。へ。り。老。人。の。歌。小。あ。り。九。兄。ら。や。蚊。間。毛
 而。き。つ。む。○。常。毛。凡。て。今。ま。と。い。ふ。も。ハ。常。と。い。ふ。も。ハ。ち。は。小。こ。ま。か。さ。り。て
 已。ち。う。池。傳。十。七。を。海。島。傳。い。ひ。り。こ。ま。と。い。ふ。も。ハ。飛。鳥。國。史。小。毛。字。な。り。一
 ○。是。豈。敢。か。く。つ。き。ま。さ。る。事。ハ。大。事。と。い。ふ。も。豈。と。い。ひ。し。無。と。結。老。と。い。ふ。ハ。

寺給位一階と云ふ十一位もわづらひ。○御巫ハ儀式帳小足等小
 内人の中御巫内人といふあはれをさしおまへり。○御巫ハ儀式帳小足等小
 と云ふは上小義法をさしおまへり。○御巫ハ儀式帳小足等小
 取。其の中宮東宮唯取。庶女堪事充之。但考選准散事官人。
 凡座摩巫取都下國造氏童女七歳已上者充之。若及嫁
 時申辨官充替。凡諸御巫者云々。○御巫ハ儀式帳小足等小
 巫と御巫と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 八柱神と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 御巫と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 大巫巫の事と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐

神宮乃由料を以て神部といふ。後六又云不飯野郡も加たりて神三郡とい
 へ。○祝部。言司神主祢宜おの色と云ふ。○但正六位上
 此下小文脱より文も例も例も依。賜物其正六位下や
 九字と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 正六位といふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 ○重三選と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 考校て等と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 課令選叙令と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 上者正六位上。上者と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐
 九等小分
 正六位上と云ふは御巫巫と云ふ事依も御巫ハ大巫巫也。神祇官一坐

下といふはやくてハ叶もまことと知べし。本小者、子を脱きり、今ハ一本小依。○孝子
云々。カ田まで淳文のまゝに十三泊の末考合まじし。孝婦ハ夫の父母小孝好家
婦。○表旗其門。此も十三泊小いり。但し加へて少りともやく賦役令小
ハ同籍免課役とまじ終身田租を免し好やうハ云々。○御手物。手
字本小平小信令ハ一本小依。○叛。本小と小頼と依を令ハ叛裏固史り依
例を叛るるハハシ。

第四十三詔

元九の巻より同三年五月丙申、攝太養、姉女等、坐巫盃配流。
詔曰と云々。

現神止大八洲國所知倭根子掛畏天皇

大命乎親王王臣百官人等天下公民衆
オホミコトヲミコメチオホミミチオホミモノノツヤクノヒトタチアミノヒメノオホミメカラモロイ
 聞食止宣久丈部姉女内都奴止爲
キコシメサヘトイリタスノハセツカベノアキメメウチノヤコト止レテ
 冠位舉給比根可婆禰改給比治給伎然
カウリクシキアゲタメヒネカバキアタメタメヒヲサメタメヒキシカ
 流物乎反天逆心乎抱藏已爲首且忍
ルモノヲカリテキタメキコロイダキチオレヒトゴカニトナリテオ
 坂女王石田女王等乎率且掛畏先朝乃
サカノオホキミイハタノオホキミタチヲヒキキテカケクモカレキサキニカド
 依過且奔給之厨真人厨女許尔竊往乍
アマニナヨリテステタメヒシクヤマヒトクヤメガモトニヒツカニユキツク
 岐多奈久惡奴止母相結且謀久家良傾奉
キタナクアシキヤツコ止トモアヒムスヒテハカリケラミカトラカクテ

朝庭亂國家マツリ アスノシタフミダリ 岐良比給キラヒヒタヒ 冰上鹽燒我ヒカミノシホヤキガ
 兒志計志麻呂コシケシシマロ 天日嗣アマヒツギ 止ト 爲セ 止ト 牟ム 謀マカ 互ニ 掛カケ
 畏天皇帝御髮カシコキスメラミコトノオホミカミ 乎ヲ 盜給ヌスミタマ 波利ハカリ 岐多奈伎佐キタナキサ
 保川乃鬪體ホガハノヒトガシラ 尔ニ 入イレ 互ニ 大宮内オホミヤノウチ 尔ニ 持參入來モチマキリキ
 互ニ 壓魅爲オシモノセ 止ト 流ル 己コ 三度ミタビ 利リ 然カレドモ 盧舍那如來ルサナニヨクイ
 最勝王經觀世音菩薩護法善神梵王帝サイソウワウキヤウクワンゼオムボサチゴホウゼムジンボムレウタイ
 釋サク 四大天王ダイタイラムワウ 乃ノ 不可思議フカシギ 威神力掛畏開シムノチカラカキモカシキアヒキ

闕己來御宇天皇御靈天地乃神ハジメヨリコナタマタマシレシヨシニスラヨコトノミタマアンツチノカミ 乃ノ 多タ 知チ 護ゴ
 助奉タヌケマ 流ル 都ツ 力チカラ 尔ニ 依ヨリ 互ニ 其等シノレ 我ガ 穢キタナク 久ク 謀マカ 互ニ 爲セ 留ル
 壓魅事皆悉發覺マシワザミナコトニアラハレ 奴ヌ 是以檢法コノヲモテイリカカナル 尔ニ 皆當死ミナコスツミニ
 刑罪由此アタレリコレニヨリ 互ニ 理コトワ 波法ハフ 未ミ 尔ニ 岐良比給キラヒヒタヒ 久ク 倍バ 在ア
 利リ 然シカレ 毛モ 慈賜メグミタマフ 止ト 爲セ 互ニ 一ヒト 等降ニナカドメ 互ニ 其等シノレ 我ガ 根ネ
 可婆カバ 禰ネ 替カヘ 互ニ 遠流トホクナガス 罪ツミ 尔ニ 治賜ヲサメタマ 止ト 布宣フシメ 布フ 天皇帝スメラミカ
 大命オホミコト 乎ヲ 衆聞食モロクキヨシメサヘ 止ト 宣ノル

現神止云々宣久。此文他の詔乃例と云々あり。まづ倭根子掛畏く
信らざる。又大命止良麻詔と云々あり。其大命事といひて宣久と宣と
やその詔のよきと云々あり。初の後之を云々あり。○丈部ハ姓氏係ハ天足彦國
押人命孫比古意祁豆命後也。まづ杖部造孝元天皇皇
子大彦命之後也。まづ丈部鴨縣主同祖鴨建津身命之後
也。おとろ内づもねりけり杖部造丈部首領もねり杖とハ曰くこ
とよと波世都加倍といふハ和名也。伊勢國朝明郡杖部鉢世都
加倍安房國長狹郡丈部波世豆加倍といふ言はまハ走握を
云べし。○姉女父祖詳あり。天平宝字七年正月小從五位下。天平神
護元年正月小從五位上を授らる。○内都奴也。内兵衛也。奴ハ臣也。
但し孫足ら内臣と云々あり。親も好むの稱ありべし。

○根可婆林改給。凡て根ハ人を書きそつハ林也。可婆林といふも
同トキハまねてつ。改給ハもとハ丈部也。まづ改給をいふハ從
五位下叙し。起上縣大養宿林とて。從五位上叙し。起上縣大養大宿
林と云々あり。丈部といふハ其賜姓ハ取て。その姓ハつと
まづ。○抱藏ハイダキと訓べし。凡て其の心を懐くといふハ懐字ハ就
ての傍文列せし。其國と云々あり。抱字ハ其の心を懐くといふハ
必給訓べき也。○首ハヒトゴノカミと訓べし。神武紀ハ魁帥此也。比登誤
加弥と云々あり。首渠又長也。比登訓也。まづ首と云々あり。一ハ本
依て正し。○忍坂女王ハ詳あり。延暦五年正月授從五位下
忍坂女王。從五位上。○石田女王も詳あり。其女王
ハ名の下ハ着し。女王ハヒメミコトハ訓べし。其ハ内親王と別あり。又ヒメオホキ
ミトハ訓べし。其ハオホキミと訓べし。其ハオホキミト訓べし。其ハオホキミト訓べし。

○彌躰ハ和名抄小頭骨也俗云比止加之良○壓魅 壓
字一本の厭と作すや詔にハ魔と仰りつゝと云ふも同し此字麻自
母乃と訓べし大被付の蠱物と云ふ妻は是れも同し此字端の文ハ
巫毒と云ふ事ト如中々種々此為方^レ了^レな小字ハさへくおまると律の八虐
の中は多^ク不道^ハ造^ル畜^ニ蠱^毒厭^魅してきて義解^ハ云々厭^魅者
其事多端不可具述皆謂邪俗陰行不軌欲令前人疾苦
及死者也又賊盜律ハ凡有所憎惡而造厭魅及造符
書咒詛欲以殺人者各以謀殺論減二等云々義解云々
と云前人と俗も前の人といふも前ハ對ふこと○盧舍那云々咸
神力み多十九流^ハ如^シ但^シ彼^レ起^ルハ最勝王經^ニ善神の二宮^ハ云々○奉
都^ノ字^ハい^ハく^ハむ^ハと^ハも^ハる^ハや^ハツル^ハと^ハ訓^ベし^ハツリ^ハと^ハい^ハふ^ハも^ハ不^レ又^ハ都^ノ部
の儀^ハも^ハツラ^ハル^ハも^ハ愛^ハど^ハ物^ハま^ハつ^ハじ^ハ一^ハか^ハ流^ハの^ハ下^ハか^ハ字^ハつ^ハハ^ハ行^ハじ^ハ○穢

久ハ穢奴^ハま^ハつ^ハ穢^キま^ハし^ハ悪^キこと^ハ上文の岐多奈伎と云々○發覺^ハ
罪のあ^ハつ^ハこと^ハ○死刑罪 於^レ聚^ル史^ハハ罪^ハ字^ハね^ハこと^ハつ^ハも^ハむ^ハこと^ハ
と^ハ賊盜律^ハ凡^ハ謀^ハ反^ハ及^ハ大^ハ逆^ハ者^ハ皆^ハ斬^ルと^ハ謀^ハ反^ハ謂^ハ謀^ハ危^ハ國^ハ
家^ハと^ハて^ハ義^ハ解^ハ不^レ敢^ハ指^ハ在^ハ尊^ハ号^ハ故^ハ託^ハ云^ハ國^ハ家^ハと^ハて^ハ天^ハを^ハ以^テ
壓^ハ魅^ハと^ハす^ハハ^ハ不^レ當^ハり^ハ○降^ハ且^ハハ^ハカ^ハロ^ハテ^ハと^ハ訓^ベし^ハ十九^ハ流^ハ一^ハ等^ハ輕^ハ賜^ハ
而^ハと^ハ者^ハ○其^ハ等^ハ不^レ破^ハ内^ハ親^ハと^ハて^ハ忍^ハ坂^ハ女^ハ石^ハ田^ハ女^ハ縣^ハ犬^ハ表^ハ宿^ハ祿^ハ姉^ハ
女^ハと^ハて^ハ岐^ハ多^ハ奈^ハ悪^ハ奴^ハと^ハて^ハ相^ハ結^ハと^ハて^ハ穢^ハま^ハす^ハ一^ハ物^ハ不^レ破^ハ内^ハ親^ハと^ハて^ハ
く^ハして^ハ厨^ハ人^ハ厨^ハ女^ハと^ハて^ハ穢^ハま^ハす^ハの^ハ上^ハに^ハ記^ハす^ハ餘^ハの^ハく^ハは^ハも^ハ此^ハに^ハか^ハく
あ^ハる^ハの^ハも^ハ此^ハに^ハか^ハく^ハ姓^ハ尸^ハと^ハて^ハ穢^ハま^ハす^ハと^ハ記^ハす^ハ也^ハ又^ハ姉^ハ女^ハも^ハ丈^ハ部^ハと^ハて^ハハ^ハ本^ハの
姓^ハを^ハつ^ハと^ハる^ハも^ハも^ハ詳^ハし^ハく^ハは^ハて^ハい^ハと^ハあ^ハる^ハこと^ハと^ハて^ハ此^ハ紀^ハの^ハや^ハ必^ハ記^ハす^ハべき
事^ハに^ハ漏^ハら^ハず^ハが^ハま^ハり^ハ又^ハ記^ハす^ハる^ハ事^ハを^ハお^ハく^ハて^ハ事^ハの^ハ儀^ハの^ハあ^ハら^ハか^ハら^ハれ^ハも^ハ多^ハ
きを^ハか^ハし^ハ○遠^ハ流^ハ罪^ハ 一^ハも^ハ志^ハ計^ハ志^ハ麻^ハ呂^ハ波^ハ土^ハ在^ハ云^ハに^ハ儀^ハと^ハて^ハの^ハ上^ハに

乃て姉女を嫁のふ。何と云ふはもとつて。記されざるはつて。かゝるて實
惠二年八月。毀外從五位下丹比宿祢乙女位記。初乙女
誣告忍坂女王縣大養宿祢姉女等。厭魅乘輿。至是姉女
罪雪。故毀乙女位記。同九月。復文部内麻呂姉女等。本姓
縣大養宿祢。同三年正月。授無位縣大養宿祢姉女。從五
位下。同二年。又同年十二月云々。景雲三年。縣大養宿祢姉女配
流。至是恩厚罪降。授從五位下。同二年。景雲三年。縣大養宿祢
云々。上の正月の起ふり。夫き。又恩厚罪降。湯字。厚原の誤也。

第四十四詔

此のまふ。同年九月己丑。詔曰。とらり。まゝ詔の次り。初太宰主
神習宜阿曾麻呂。希旨方媚事。道鏡因矯八幡神教言。令

道鏡即皇位。天下太平。道鏡聞之。深喜。自負。天皇召清麻
呂於床下。勅曰。昨夜夢八幡神使來云。大神為令奏事。請
尼法均宜汝。清麻呂相代而往。聽彼神命。臨發道鏡語。清
麻呂曰。大神所以請使者。蓋為告我即位之事。因重慕以
官爵。清麻呂行。詣神宮。大神託宣曰。我國家開闢以來。君
臣定矣。以臣為君。未之有也。天之日嗣。必立皇緒。無道之
人。宜早掃除。清麻呂來。歸奏如神教。於是道鏡大怒。解清
麻呂本官。出為囚。幡負外。介未之任。所尋有詔。除名。配於
大隅。其姉法均。還俗。配於備後。とらり。まゝ。

天皇 我御命 止 麻詔 又大臣下 等 云物 波

君仁キニ隨シカヒテ天テ淨キヨク久ク貞サカシ仁ニ明アカキ心ココロ乎ヲ以モチ天テ君キニ乎ヲ助タス
 護マモリ奉ツカヘ對カヒ天テ無キヤナ禮ナ岐キ面オモ幣ヘ無ナ久ク後ウシロ仁ニ謗ソレル言コト無ナ
 久ク奸カガミ偽イツハ利リ諂ツラヒ曲カレ流ル心ココロ無ク奉ツカヘ侍ツル岐キ倍ベ物モノ仁ニ在アリ
 然シカル物モノ乎ヲ從ヒロキ五イツノクニ位クニ下カスヨリ因ホカノ幡ムケ國クニ員カスヨリ外ホカノ介ムケ輔フ治ヂ能ノ
 眞マコト人ヒト清キヨク麻マ呂ロ其ソノ我ガ姉アネ法ホウ均クム止ト甚イト大オホキ亦ニ惡アヒ久ク
 奸カガミ流ル妄イツハリ語ゴト乎ヲ作ツクリ豆マメ朕アレ仁ニ對カヒ天テ法ホウ均クム伊イ物モノ奏モラセ
 利リ此コト乎ヲ見ミ流ル面オモテ乃ノ色イロ形カタチ口クハ尔ニ云イフ言コト猶ナホ明アカシ尔ニ

己オノ何ガ作ツクリ天テ云イフ言コト乎ヲ大オホ神カミ乃ノ御ミ命コト止ト借カリ天テ言イフ
 止ト所シロシメシ知ス奴ヌ問トヒ求モトメル仁ニ朕アガ所オモホ念シ在アル何ガ如ゴト久ク大オホ
 神カミ乃ノ御ミ命コト波ハ不アラズ在ト聞キコシ行サダメ定ツ都カレ故コト是モテ以テ法ノリ
 乃ノ麻マ退シグメ給タマフ止ト詔ノリ布フ御オホ命ミコト乎ヲ衆モロク諸ク聞キコシ食メサヘ止ト宣ノル
 復マタ詔ノリ久ク此コト事コトかヒト人ヒト乃ノ奏マラシ天テ在アル毛モ仁ニ不アラズ在タ唯タ言コト
 其ソノ理コト亦ニ不アラズ在サカシマ逆ニ云イヘ利リ面オモ弊ヘ利リ無キヤナク禮ナ之シ己オノ己オノ
 事コト乎ヲ納キ用モチヒ止ト與ヨ念オモヒ天テ在アリ是コレ天アメ地ツチ乃ノ逆サカシマ止ト云イフ尔ニ

○詔詞解五

○四十七

此^{コレ}與^ユ利^リ増^マ波^ハ無^ナ然^シ此^コ方^ハ諸^{シヨ}聖^ウ等^{タチ}天^{アマ}神^{ツカ}地^ニ祇^カ現^ニ
 給^タ比^ヒ悟^{サト}給^シ曾^ソ己^コ在^ア礼^レ誰^{タレ}可^カ敢^ア且^テ朕^ア尔^ニ奏^シ給^ハ
 牟^ム猶^ナ人^{ヒト}方^ハ不^マ奏^サ在^ア等^ド心^{ココロ}中^{ウチ}惡^ア久^ク垢^{キタナ}久^ク濁^{ヨリ}天^テ
 在^{アル}人^{ヒト}波^ハ必^カ天^{アメ}地^{ツチ}現^{アラ}之^レ示^シ給^タ留^ル都^ツ物^{モノ}曾^ゾ是^コ以^シ人^{ヒト}
 人^{ヒト}己^{オノ}何^ガ心^{ココロ}乎^ヲ明^{アカ}尔^ニ清^{キヨク}久^ク貞^{サダカ}尔^ニ謹^{ツク}天^{ツカ}奉^マ侍^シ止^ト
 詔^{ウリタマ}布^ハ御^ミ命^{ミコト}乎^ヲ衆^{モロク}諸^{シヨ}聞^ク食^ケ止^ト宣^ウ復^タ此^{コノ}事^{コト}乎^ヲ知^リ
 天^テ清^{キヨク}麻^マ呂^ロ等^ラ止^ト相^{アヒ}謀^{ハカリ}人^{ヒト}在^{アリ}所^シ知^ル天^テ在^{アレ}

止^ド君^{キミ}波^ハ慈^メ乎^ヲ以^モ豆^テ天^{アメ}下^ノ乃^ノ政^シ波^ハ行^ク給^タ物^{モノ}尔^ニ
 伊^イ麻^マ世^セ波^バ慈^メ備^ビ愍^ミ美^ミ給^タ天^テ免^ル給^タ布^フ然^シ行^ク事^ジ
 乃^ノ重^カ在^リ牟^ム人^{ヒト}波^ハ法^{ホウ}尔^ニ乃^ノ麻^マ收^ウ給^タ牟^ム物^{モノ}曾^ゾ如^ク是^ノ
 状^{サマ}悟^{サトリ}天^テ先^ニ尔^ニ清^{キヨク}麻^マ呂^ロ等^ラ止^ト同^コ心^{ココロ}一^{ヒト}二^ニ乃^ノ
 事^{コト}毛^モ相^{アヒ}謀^{ハカリ}牟^ム人^{ヒト}等^ト波^ハ心^{ココロ}改^メ天^テ明^{アカ}仁^ニ貞^{サダカ}尔^ニ在^{アル}
 心^{ココロ}乎^ヲ以^モ天^テ奉^マ侍^シ止^ト詔^ウ布^フ御^ミ命^{ミコト}乎^ヲ衆^{モロク}諸^{シヨ}聞^ク食^ケ
 止^ト宣^ウ復^タ清^{キヨク}麻^マ呂^ロ等^ラ波^ハ奉^マ侍^シ留^ル奴^{ヤツ}止^ト所^シ念^ル天^テ

○詔詞解五

〇五十八

曾^ソ 姓^{カネ} 毛^モ 賜^{タヒ} 与^テ 治^{ツサメ} 給^{タヒ} 之^ノ 今^{イマ} 波^ハ 穢^{キタナ} 奴^コ 止^ト 之^ノ 退^{シタ} 給^{タラ}
 尔^ニ 依^{ヨリテ} 奈^ナ 賜^{タヒ} 弊^ヘ 利^リ 姓^{カネ} 方^ハ 取^{トリ} 与^テ 别^{ワケ} 部^ベ 止^ト 成^{ナシ} 給^{タヒ} 与^テ
 其^ソ 我^ガ 名^ナ 波^ハ 穢^{キタナ} 麻^マ 吕^ロ 止^ト 给^{タヒ} 比^ヒ 法^{ホウ} 均^{クム} 我^ガ 名^ナ 毛^モ 廣^{ヒロ}
 出^シ 賣^メ 止^ト 還^{カシ} 給^{タラ} 止^ト 詔^{リク} 布^フ 御^{オホ} 命^{ミコト} 乎^ヲ 衆^{モロ} 諸^ク 聞^{キコシ} 食^{メサ} 止^ト
 宣^{ノル} 復^{マタ} 明^{ミヤ} 基^キ 波^ハ 廣^{ヒロ} 虫^{ムシ} 賣^メ 止^ト 身^ミ 波^ハ 二^{フタ} 尔^ニ 在^{アレ} 止^ト 心^{ココロ}
 波^ハ 一^{ヒト} 尔^ニ 在^{アリ} 止^ト 所^{シロ} 知^{シメ} 毛^モ 奈^ナ 其^ソ 我^ガ 名^ナ 毛^モ 取^{トリ} 給^{タヒ} 与^テ
 同^{オヤシ} 久^ク 退^シ 給^{タラ} 等^ト 詔^{リク} 布^フ 御^{オホ} 命^{ミコト} 乎^ヲ 衆^{モロ} 諸^ク 聞^{キコシ} 食^{メサ} 止^ト 宣^{ノル}

時 天々君の心のまふく拙し。遺ひなきをいふ。これ治の裏かあや
 老と眼心。○助護。此下ふ。おのれ奉字まへ。今補へ。奉侍二字まへも
 美し。字一。派小護助奉侍。○對^天。君おし。○面^幣。八面のま。比少。俗う
 け。執事。彩色。應神紀。有^不。性^之。色^武。烈^紀。不^忍。發^顯。天^武。紀
 小。若^有。不^服。色^毛。ま。○後^仁。俗^ハ。陰^ハ。ま。○負^外。ハ。カ^ス。ヨ^リ。オ^ノ。と。何^ヘ。
 源氏相。不^か。と。り。の。格^ち。ゆ。を。お。ま。○輔^治。能^真。人^ハ。ま。と。ハ。磐^梨。
 別^公。は。後^小。藤^野。真^人。姓^を。賜^ひ。又^後。小^和。氣^朝。臣^と。お。ま。り。も。備^前。國^{より}
 知^し。う。結^玉。の。地^を。和^名。抄^小。備^前。國^和。氣^郡。藤^野。々^ま。磐^梨。郡^和
 氣^々。石^生。々^伊。波^々。々^奈。須^々。和^氣。郡^高。名^ハ。藤^野。郡^ま。り。き。姓^氏。源^小。和^氣
 朝^臣。垂^仁。天^皇。皇^子。鐸^石。別^命。之^後。也。神^功。皇^后。云^々。遣^弟。彦^王。於^針。間^吉。備^埴。造^開。
 防^之。所^謂。和^氣。開^是。也。太^平。後^錄。從^駕。勲^酬。以^對。地^仍。被^吉。備^磐。梨^縣。始^家。之^云。○

清麻呂も天平神護元年正月、從六位上藤野真人清麻呂授勳六等、同年三月、備前國藤野郡人、正六位下藤野別、真人廣虫女、右兵衛少尉從六位上藤野別、真人清麻呂等三人、賜姓吉備藤野和氣真人、同二年十一月、輔治能真人清麻呂授從五位下、神護景雲三年五月、從五位下吉備藤野和氣真人清麻呂等賜姓輔治能真人、同年八月甲寅、從五位下輔治能真人清麻呂為因幡負外介、とる、凡人のこれより未だる、與ふ、と、その侍の文の四、神護二年十一月の処、小浦治能、善人とあり、但し、かゝると、吉備藤野和氣、善人とあるべきこと、○法均、均、字、吳音クム、古、今、系、の作者、兼均は、原を、假字、小、を、と、と、と、此、尼、也、俗名、廣虫女、尼、小、なり、大、尼、といふ位階を、賜ふ、了、を、その、後、の、大、法師、の、ゆ、き、位階、あり、神護景雲二年十月、大尼法戒、從三位、賜

封戸、大尼法均、從四位下、と、る、此、人、の、こと、より、未、だ、る、與、ふ、
り、と、○大、九、て、か、る、大、小、と、い、ふ、も、傳、文、と、を、同、を、中、を、い、
と、と、い、ふ、也、○妄語、ハ、イツ、リ、コト、と、列、べ、し、毛、菴、紀、小、虚、言、繼、發、紀、
虚、欽、の、紀、小、虚、妄、虚、誕、敏、進、紀、小、嬌、詐、天、智、紀、小、虚、説、と、る、○清
麻呂、宇、佐、より、加、り、の、り、て、大、神、の、託、宣、を、ま、け、ま、く、奏、せ、り、道、鏡、が、
怒、り、て、か、く、妄、語、と、し、り、り、お、き、り、と、り、○法、均、伊、物、奏、利、ハ、清、麻
呂、は、を、終、り、り、ま、つ、の、託、宣、を、此、尼、が、り、傳、へ、て、奏、せ、り、お、き、り、○面、乃
色、形、云、と、造、り、し、い、言、と、ハ、面、の、色、形、何、の、い、ひ、ま、な、を、明、く、あ、り、と、
つ、と、明、カ、ハ、所、知、奴、へ、係、り、り、○借、天、ハ、託、と、○問、求、ハ、け、事、を、知、り、
べき、人、小、問、て、虚、実、を、ま、け、せ、り、○聞、行、定、都、ハ、問、求、を、ま、け、り、
言、を、聞、食、て、安、治、を、ま、け、決、ま、り、り、○法、乃、麻、一、カ、下、の、麻、の、下、カ、字
を、物、と、り、麻、木、麻、と、い、つ、例、も、と、り、○此、事、と、ハ、法、均、が、奏、せ、り、託、宣

○依テ奈モ一本小毛マと年と作ハわらシ。まニよりハむシといフ例ハ也ハ也ハ。
まニよりハむシとハ天字ノむシハヨリナモモ訓レ。○其レ我レ一本小某ト作ハむシ。
○廣虫賣出字下本融ト作ハむシ。今ハ一本又ハ張國史ニハ依リ。次
むシもト印ハ也。此ノ名ノ印ハ也。虫字融ト也。まニよりハむシ。○明基ハまニよりハむシ。
まニよりハむシ。○還給まニよりハむシ。○明基ハまニよりハむシ。
まニよりハむシ。○清
麻呂又法均ノまニよりハむシ。寶龜元年九月。徵和氣清麻呂廣
虫於備後大隅請京師。同二年三月。復和氣公清麻呂本
位從五位下。同五年九月。從五位下和氣宿祢清麻呂廣
虫賜姓朝臣。まニよりハむシ。○紀小漏ハ天應元年
十一月。授從五位下和氣朝臣清麻呂。從四位下。延曆二
年三月。為攝津大夫。同七年二月。為中官大夫。民部大輔

攝津大夫。如故ト。後紀小延曆十八年二月乙亥朔
乙未。贈正三位行民部卿兼造官大夫美作備前國造和
氣朝臣清麻呂。本姓磐梨別公。右京人也。後改姓藤野
和氣真人。清麻呂為人高直。匪躬之節。與姊廣虫共事高
野天皇。並蒙愛信任。右兵衛少尉神護初。授從五位下。遷
近衛將監。特賜封五十戶。姊廣虫及笄年。許嫁。從五位下
葛木宿祢戶主。既而天皇落飾。隨出家。為御弟子。法名法
均。授進守大夫。尼位。委以腹心。賜四位。封并位。祿位田。室
字八年大保惠美。忍勝叛逆。伏誅。連及。當斬者三百七十
五人。法均切諫。天皇納之。減死刑。以夏流徙。亂止之後。民
苦飢疫。弃子草間。遣人收養。得八十三兒。同名養子。賜葛
木首。此時僧道鏡得幸於天皇。出入警蹕。一擬乘輿。号曰

法王太宰主神習耳阿蘇麻呂媚事道鏡幡八幡神教言
令道鏡即帝位天下太平道鏡聞之惜喜自負天皇曰清
麻呂於牀下曰夢有人來稱八幡神使云為奏事請尼法
均朕善曰法均軟弱難堪遠路其代遣清麻呂汝宜早參
聽神之教道鏡復喚清麻呂募以大臣之位先是路真人
豐永為道鏡之師語清麻呂云道鏡若登天位吾以何面
目可為其臣吾與二三子共為今日之伯夷耳清麻呂深
然其言常懷致命之志往詣神宮神託宣云清麻呂祈
曰今大神所教是國家之大事也託宣難信願示神異神
即忽然現形其長三丈許色如滿月清麻呂消魂失度不
能仰見於是神託宣我國家君臣分定而道鏡悖逆無道
輒聖神器是以神靈震怒不聽其祈汝歸如吾言奏之天

之日嗣必續皇緒汝勿懼道鏡之怒吾必相濟清麻呂歸
來奏如神教天皇不忍誅為因幡負外介尋改姓名為別
部織麻呂流于大隅國尼法均還俗為別部狹虫流于備
後國道鏡又追將殺清麻呂於道雷雨晦暝未即行俄而
勅使來僅得免于時參議右大辨藤原朝臣百川愍其忠
烈便割備後國封鄉戶送充於配處室龜元年聖帝踐
祚有勅入京賜姓和氣朝臣復本位名姉廣虫又掌吐納
叙從四位下任典藏累至正四位下帝從容勅曰諸侍從
臣毀譽紛紜未嘗聞法均語他過友于天至姉弟同財孔
懷之義見稱當時延曆十七年正月十九日薨與弟卿約
期云諸七及服闋之日勿勞追福唯與二三行者坐靜室
事禮懺耳後世子孫仰吾二人以為法則天長二年天皇

追思舊績贈正三位之告身弟清麻呂脚痿不能起立為
拜八幡神輿病即路及至豐前國宇佐郡栢田村有野猪
三百許挾路而列徐步前驅十許里走入山中見人共異
之拜社之日始得起步神託宣賜神封綿八萬餘屯即頒
給官司以下國中百姓始駕輿而往後馳馬而還累路見
人莫不歎異清麻呂之先出自垂仁天皇皇子鐸石列命
云々高祖父佐波良曾祖父波伎豆祖宿奈父乎麻呂墳
墓在本鄉者拱樹成林清麻呂投竄之日為人所伐除歸
來上疏陳狀詔以佐波良等四人并清麻呂為美作備前
兩國國造天應元年授從四位下拜民部大捕為攝津大
夫累遷中宮大夫民部卿授從三位延曆十七年上表請
骸骨優詔不許仍賜功田七町以傳子孫清麻呂練於庶

務尤明古事撰民部省例廿卷于今傳焉奉中宮教撰和
氏譜奏之帝甚善之長岡新都經十載未成功費不可勝
計清麻呂潛奏令上託遊獵相葛野地更遷上都清麻呂
為攝津大夫鑿河內川直通西海擬除水害所費巨多功
遂不成私墾田一百町在備前國永為振給田鄉民惠之
薨時贈正三位年六十七有六男二女長子廣世云々
又云此卿道鏡がまかり成權ふ媚ふとぞくその怒まおれぬ
身まてて神乃ほおのまふかりと奏され一功の世ふまてて後の治
は即位乃らとせ此宇佐の山役り必け和氣氏の人を遣て例とせなり
かゝる功のしめとす此つはるまゝいふはるまゝなり父
名乎麻呂家系國又清麻呂信といふ相をもち平麻呂といふは
かゝる又姉の廣虫も件の文ふらるるやむくおてはらるる人ふらるる

天^テ 朕^{アガ}子^コ 天^{オホ}皇^{キミ} 仁^ニ 奉^{ツカ}侍^ヘ 利^リ 護^{モリ} 助^{タス}
 太^{ヒツギ}子^{ノミ} 乎^ヲ 助^{タス} 奉^{ツカ} 侍^ヘ 礼^レ 朕^ア 我^ガ 教^ヲ 給^ヒ 布^フ 御^ニ 命^{コト} 尔^ニ 不^レ
 順^{ハズ} 之^ヲ 王^{オホ} 等^{キミ} 波^ハ 己^{オノ} 我^ガ 得^ウ 帝^{ミコ} 乃^ノ 尊^{タフ} 岐^キ 寶^ミ 位^{タラシ}
 乎^ヲ 望^{ノゾミ} 求^メ 米^{ヒト} 人^ヲ 乎^ヲ 伊^イ 射^ザ 奈^ナ 比^ヒ 惡^{アシ} 久^ク 穢^{キタナキ} 心^{ココロ} 乎^ヲ 以^{モテ}
 天^テ 逆^{サカシ} 尔^ニ 在^{アル} 謀^{ハカリ} 乎^ヲ 起^{タテ} 臣^{オミ} 等^{タチ} 方^ハ 己^{オノ} 我^ガ 比^ヒ 伎^キ 婢^ヒ 企^キ
 是^{コレ} 尔^ニ 託^{ツキ} 彼^{カレ} 尔^ニ 依^{ヨリ} 都^ツ 頑^{カク} 尔^ニ 無^キ 禮^{ヤナ} 伎^キ 心^{ココロ} 乎^ヲ 念^{オモヒ} 互^テ
 横^{ヨコ} 乃^ノ 謀^{ハカリ} 乎^ヲ 構^{カヘ} 如^カ 是^ク 在^{アル} 牟^ム 人^{ヒト} 等^モ 波^ハ 朕^{アレ} 必^{カナラ} 天^{アマ} 翔^{カケリ}

給^{タマヒ} 天^テ 見^ミ 行^{ナハ} 之^シ 退^{シツケ} 給^{タマヒ} 比^ヒ 捨^{ステ} 給^{タマヒ} 比^ヒ 岐^キ 良^ラ 比^ヒ 給^{タマヒ} 牟^ム
 物^{モノ} 曾^ゾ 天^{アメ} 地^{ツチ} 乃^ノ 福^{サチ} 毛^モ 不^カ 蒙^フ 自^ジ 是^{カク} 状^{サマ} 知^{シリ} 天^テ 明^{アカシ} 仁^ニ
 淨^{キヨ} 伎^キ 心^{ココロ} 乎^ヲ 以^{モテ} 天^テ 奉^{ツカ} 侍^ヘ 牟^ム 人^{ヒト} 波^ハ 慈^{メクシ} 給^{タマヒ} 比^ヒ 愍^{アハレ} 給^{タマヒ}
 天^テ 治^{ツクメ} 給^{タマヒ} 牟^ム 物^{モノ} 曾^ゾ 復^{マタ} 天^{アメ} 乃^ノ 福^{サチ} 毛^モ 蒙^{カフ} 利^リ 永^{ナガ} 世^{キヨ} 尔^ニ
 門^{カド} 不^レ 絶^{タズ} 奉^{ツカ} 侍^ヘ 利^リ 昌^{サカシ} 牟^ム 許^{コト} 己^ニ 知^{シリ} 天^テ 謹^{ツツシ} 利^リ 淨^{キヨ} 心^{ココロ}
 乎^ヲ 以^{モテ} 天^{ツカ} 奉^ヘ 侍^{ツレ} 止^ト 將^{イリ} 命^{タマハム} 止^ト 奈^ナ 召^{メシ} 都^ツ 流^リ 勅^{ツキ} 比^ヒ 於^オ
 保^ホ 世^セ 給^{タマフ} 布^フ 御^{オホ} 命^{ミコト} 乎^ヲ 衆^{モロ} 諸^ク 聞^{キコシ} 食^シ 止^ト 宣^{ノル} 復^{マタ} 詔^{タマハク} 久^ク

○詔詞解五

○五十六

掛毛畏伎朕我天乃御門帝皇我御命以
 天勅之朕尔奉侍率諸臣等朕乎君止念
 牟人方大皇后仁能奉侍礼朕乎念天在
 我如久異奈念繼朕子太子尔明仁淨
 久二心無天奉侍礼朕方子二利云言波
 無唯太子一人曾味朕我子波在此心知
 天諸護助奉侍礼然朕波御身都可良之

於保麻之麻須尔依天太子尔天都日嗣
 高御座乃繼方天授流止命天朕尔勅之天
 下乃政事波慈乎以天治與復上波三寶
 乃御法乎隆米出家道人乎治利麻都次波
 諸天神地祇乃祭禮乎不絶下波天下乃
 諸人民乎愍給弊復勅之此帝乃位止云
 物波天乃授不給奴人尔授保保己止不

○詔詞解五

○五十七

得亦變スレタカヘリテ天身テミ毛滅モホビ流奴物ヌモノ曾朕ソノア我立ガタテ天在テアル人
 止ト云イフ汝我心ミシガココロ不能ヨカラズ知目シリメ尔見ニミ天人テヒト
 淨改カヘ立タテム事方コトハ心ココロ乃與ノヨ麻マ命伎イリタヒキ復マタノリタヒ勅ツケ
 波ハ改カヘ天テ立タテム事コト方ハ心ココロ乃ノ與ヨ麻マ命イリタヒ伎キ復マタノリ勅ツケ
 久ク之シ朕アガ我ガ東人アツマヒト尔ニ授刀タチサツタ天侍テサモラハ留之ルシ牟ム事コト波ハ汝ニ乃ノ
 近護チカキモリ天テ止ト之レ護モラシメ近チカキ與ヨ念オモヒ奈ナ在アル是コノ東人アツマヒト波ハ常ツネ
 云イヒ天テ君キミ乎ヲ一ヒト心ココロ乎ヲ以モチ天テ護モル物モノ曾ソノ此コノ心ココロ知シ天テ
 尔ニ云イハ久ク額ヒタヒ方ハ箭ヤ波ハ立タツ背セ波ハ箭ヤ方ハ不タ立ジ止ト
 云イヒ天テ君キミ乎ヲ一ヒト心ココロ乎ヲ以モチ天テ護モル物モノ曾ソノ此コノ心ココロ知シ天テ

汝都ミシツカ可カ弊ヘ勅ツケ御命オホミコト乎ヲ不ワスレズ忘カクノサニ此サトリ狀テ悟モロク諸ノ
 東國アツマクニ乃ヒト人等ヒトモ謹ツ利リ之レ麻マ奉侍ツカヘマツ礼レ然サテカチシク掛モ畏カレコ岐キ
 二所フタトコロ乃ノ天スメテ皇ガ我オホミコト御命ヲ乎ア朕ガ我イナタキニ頂ウチタマハリ尔テ受賜ウチタマハリ天テ
 晝ヒル毛モ夜ヨル毛モ念オモホシモチ持テ在アレ止ド由ユル無ナク之シ人ヒト尔ニ云イヒ聞キカ
 留ル之シ牟ム事コト不エ得ズ猶ナホア此コト尔ニ依ヨリ天テ諸モロク乃ノ人ヒト尔ニ令キカシム聞キカ
 止ト奈メ召メ留ル故カレ是以コトモテ今イマ朕ガ我イニシ汝等タチ乎ヲ教フシ給タマハシム牟ム
 御命オホミコト乎ヲ衆モロク諸ノ聞キカ食シ止ト宣ノリ夫ソレ君キミ乃ノ位クラキ波ハ願ネカヒモルル求ム
 御命オホミコト乎ヲ衆モロク諸ノ聞キカ食シ止ト宣ノリ夫ソレ君キミ乃ノ位クラキ波ハ願ネカヒモルル求ム

○詔詞解五

○五十八

手ヲ以テ得事方甚難止云言波ハ皆知天在
 先乃人波謀乎遲奈之我方能久都與
 謀天必得止天牟念天種種願禱毛止猶
 久謀天必得止天牟念天種種願禱毛止猶
 諸聖天神地祇御靈乃不免給不授給物
 在波自然尔人毛申顯己我口乎以毛天
 云都變天身乎滅災乎蒙天終尔罪乎己
 毛他毛同久致郁因茲天天地手恨君臣

乎怨奴猶心乎改天直久淨久在波天地
 毛憎多受麻君毛捨不給福乎蒙身毛安
 家生方官位乎賜利昌死波善名手遠世
 尔流傳年天是故先乃賢人云天在久體方
 灰止共尔地仁埋礼止名波烟止共尔天
 尔昇止云利又云久過乎知方必改與能
 手得方莫忘布伊然物乎口尔我方淨止

○紹詞解五

○五十九

云天心仁穢波天乃不覆地乃不載奴所
 止成奴此手持伊稱乎致之捨波伊謗乎招
 都猶朕我尊備拜美讀誦之奉留最勝王
 經乃王法正論品尔命久若造善惡業今
 於現在中諸天共護持示其善惡報國人
 造惡業王者不禁制此非順正理治擯當
 如法止命天在是乎以天汝等乎教導久

今世尔世間乃榮福乎蒙利忠浄名乎顯
 之後世人天乃勝樂乎受天終尔佛止
 成止所念念奈諸尔是事乎教給止詔布
 御命乎衆諸聞食止宣復詔久此賜布帶
 乎多麻波利汝等乃心乎等等能倍直之
 朕我教事尔不違天東祿治牟表止奈此
 帶乎賜止詔布御命乎衆諸聞食止宣

○詔詞解五

〇六十

掛 麻久 麻字一万余と傳ふ。○新城乃大官 本云々 新城といふ
 多修天武紀五年小將都新城ま十一十年云々持統紀三
 年云々五年鎮祭新益京六年天皇觀新益京路まどきて
 新益とあるも少ひき少て新城といふ大和を添下りて此紀小室龜五年
 八月幸新城宮といふ地也。然ども今言ふ八件の新城をハ由り
 一ハ平城大宮と云ふまきこしハ平字を新小室程身うとされと平とを
 字の形もまきく保まきりもわが保新の下ハ平字成をまきり。亦も本末此古
 京小對て新平城云々とハ言ふわわらむ程よく保へり。○中都天皇ハ元
 正天皇と平城ハ元正天皇より本坐して元正天皇ハ三世小坐す。亦中 ナカ
 中 ナカ 居りし中昔小人の言はるる中昔も今二つを中昔といふと曰ふ。
 ○後乃御命ハ遺詔此天皇天平元年四月小崩坐。雄略紀推古紀
 にも遺詔。舒明紀小天皇 遺言 ○召都都字一本豆と作。又さも曰ふ。

○於太比 ハ 一保ふ也。○朕子天皇ハ聖武天皇成り。實ハ後
 命に坐すせども太子と稱へし。朕子ハ保ふ。十日保ふ朕子王。身五保ふ。
 此天皇の聖武天皇を吾子美麻斯王とも保ふ。○助 麻都 麻都を一本ふ
 万豆と保ふ。○継 天 天ハ次中をいふ。○太子ハ孝謙天皇。天平十年正月、
 太子に立給ふ。○得 麻 之一本ふ。之の下ハ字。字つりてハ行とる也。五十八
 保ふ。忘得 末之自 末之自とつる自字と曰ふ。核ふ。中中ハ行とも決まか。ハ。おを彼
 美奈毛 カ 寶位ハ戎書ハ聖人大室曰位といふ。よりやも名目。
 保の起り。○寶位ハ戎書ハ聖人大室曰位といふ。よりやも名目。
 字考す。後へり。河をく。三クラ中。ハ。之をク。年と。何む。こ。ち。何。け。目。
 此紀の保ふ。と。字九保と。つる。も。保。後。ハ。何。保。室位といふ。ハ。何。
 と。な。て。詔。と。保。保。目。保。ハ。何。○逆 在 在。在。字。本。左。保。今。ハ。一
 本。保。と。保。在。ハ。左。道。の。ま。と。て。モ。ト。何。と。保。さ。と。と。と。保。と。保。
 在。を。保。と。○是 本 託云々。託ハ屬。此王彼王ハ屬依て其を立て。己ガ功

○東人も、東國の人。○授刀、天平九年慶雲四年七月始置授刀
舍人寮、とつより此より授刀の官あり。養老四年三月加右
大臣正二位藤原朝臣不比等授刀資人三十人。同五年
十二月授刀寮及五衛府云々。同六年閏四月陸奥按察
使管内百姓云々。其國授刀兵衛衛士云々。如此之類皆
悉放還各從本色。神龜三年三月云々。及大舍人授刀舍
人兵衛等云々。天平十八年二月改騎舍人為授刀舍人。
天平勝室八歲五月左衛士督坂上忌寸大養右衛士卒
鴨朝臣虫麻呂云々。其所從授刀舍人二十人。增位四等。
同年秋七月勅授刀舍人考選賜祿名籍者悉屬中衛府。
其人数者以四百為限。嗣即簡補。但名授刀舍人勿為中
衛舍人。其中衛舍人亦以四百為限。天平宝字三年十二

月置授刀衛其官負督一人從四位上官佐一人云。少
志二人正八位下官同四年十一月遣授刀舍人春口部
三開中衛舍人土師宿祿開成等六人於太宰府就大貳
吉備朝臣真備令習諸葛亮八陣孫子九地及結營向背
天平神護元年二月改授刀衛為近衛府其官負大將一
人為正三位官中將一人云々。又件の如くは東人の
授刀天とつより授刀舍人あり。またその授刀舍人よりハ九て東人の
を補きれり。れり。授刀舍人の中かある人よりハ九て侍り。たは
またその如くは知れり。○近護止之。授刀衛を改めて近衛府とす。此
も此友もより近き護あり。○護近止。近字ハ從一不ハ如虫
也。近と保也。そのもす。むハ之米を下米とて。つハ近とハせり。
凡姑くモラシヨと似て。後の考ハす。○額波云々ハ敵ハむひて。手ハ負

へき処あるは都実なり。然るも形は但し本八法五九法中も必都くと云ふき処は
三三ちまむ都とのと云。○他 毛ハいざぬをねて同ゆる人もの。○致ハ令至
ぬて事くあむし。○君臣 毛ハ君を臣をもあて君と臣とを對いしやうら
む。長ハオ三と川べし。罪を儀し刑をり行ふ長らうねをいふ。○心 乎 改
天。改といふ心はくく。今取ふ事な謀る人のつやくするは。但し強てい
ば。今もあひまを謀らむ。むをふらひし人ありと。といふをさんふせら
て見さば。波受。○憎 波 多 麻 麻字一本ふ万と傳り。○流傳 天ハナガサヒテムと
訓べし。ねがくは延てねがひといふ。万字十八ふ大夫乃。伎欲 吉彼名乎。
伊尔之散欲 伊麻乃乎。追通 尔奈我佐散流。こども流せを延て
ねがくは。いふ。ねがくは。長くもかて。くく。傳るをいふ。○先 乃ハ昔はとい
も。さく。○體 方 仄 止 共 尔 云くハ。澤人の流るまで。改を國人乃。強
あふべし。も。灰と烟ともをいふ。改をいふ。たき人のつやくも。火葬とい

ふ事あむ。く。ねがくは。ねがくは。人の傳り。○過 乎 知 天 云く。千字文。知 過
必 改 得 能 莫 忘。○持 伊 波 とつぎ。助為多。十三法ハ。治 賜
伊 成 自 伊 とつぎ。○稱 保 麻 社 と川べし。次の謗の反心。ふられハ。被 称 の
切。○招 都 都 字 一 本 豆 と傳り。○王 法 正 論 品 八 彼 經 三 十 一 品 乃
か。中。第 二 十 七。○若 造 善 惡 云く。此文うは。經ハ。若 造 諸 惡 業 令
於 現 世 中 諸 天 不 護 持 示 其 諸 惡 報 國 人 造 惡 業 王 捨 不
禁 制 斯 非 順 正 理 治 擯 當 如 法 とつぎ。さく。ふ。初 四 句 異
こと。件 文 の 上 云く。令 捨 惡 修 善 諸 天 共 護 持 示 其 諸 善 報 とわ
あ。一 小 合 せ 文 を 加 へ て 引 出 する もの と云。然るも。造 惡 業 もの 諸 天 共 護
持 といひてハ。や。り 背 きて う。い。作者ハ。失 ぬ。ま。今 字 ハ。令 を 強
き。又 諸 本 小 禁 止 上 の 不 字 を 脱 ぎ。ま。一 本 小 依 たり。又 王 者 者 實 捨 ぬ
と。同 書 ぬ。あ。不 得 ぬ。あ。○人 天 乃 勝 樂 乎 受 天 云く。同 經 乃 僧

真尔耶藥又大將品とつり。當受無量俱胝那度多劫。不可思量。人天勝樂。常与諸佛共相值遇。速證無上正等菩提。とつり。終尔佛止成也。この速證無上とつり。○此賜布帶手云く。賜布ハ與ふべきをいふ。多麻波利ハ受るべきをいふ。彼此の言ぢめあふ。○第一浴衣とつり。○此時書を賜へり。此浴衣の次ハ其帶皆以紫綾為之。長各八尺。其二端以金泥書。怨字。賜五位已上。其以才伎貢獻叙位者不在賜限。但藤原氏者。雖未成人。皆賜之。とつり。○東林治年表止。第ハ衣を治せ。結ハ固む。物ぢれハ。○賜止。一本ハ久の上。細虫の八字。巧ハ賜の下。侍ハ。序假子のハのまを射。とつり。を。見。淨。了。み。と。○此詔ハ文のやうに以て考ふ。ふ。と。ハ。志。一。五。平。神。護。元。年。和。氣。王。を。誅。及。せ。り。と。て。誅。ま。と。又。粟。田。と。麻。呂。お。と。三。人。を。誅。せ。り。と。い。ふ。時。そ。の。不。法。き。の。始。を。て。此。詔。の。決。り。生。ま。り。史。の。記。し。て。此。也。ハ。入。り。て。ハ。非。る。也。

第四十六詔

同年十一月壬辰賜宴於五位已上詔曰と有

禮	念	天	聞	今	勅	久	今	日	方	新	嘗	乃	猶	良	比	乃	豐	乃	明
志	仁	地	賣	許	之	之	日	仁	在	然	昨	日	能	冬	至	日	仁	天	雨
與	伊	潤	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良					
呂	豫	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
許	國	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
保	利	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
奈	志	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
毛	止	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
見	流	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
復	三	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
乃	乃	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
善	事	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						
乃	乃	萬	物	毛	萌	毛	延	始	天	好	阿	流	良						

オヤシトキニツドヒテアル之イトメツラシトオホシカシコトタフト備
 同時仁集天在止甚希有止念畏未尊
 諸臣等止共仁異奇久麗白伎形乎奈見
ヨココベ喜流故是以黒記白記乃御酒食倍恵良
ギツネモ伎常毛賜酒幣乃物賜之天御物給止波久
シツネモ宣

新嘗ハ、比那閑と列べし、閑ハ侍考、辨と傳ハ、ちち。又、三十方と列も、むくこと
 好む雨の降も、依
 布由乃伎波美と列べし。○天雨ハ、アマフリと列べし。○萌ハ、マダミと列べし。冬至ハ、

好む芽むしむて、むしハ、角むし儀むしむるものむしむこと。○好む雨の降も、依
 てし。○白祥瑞ハ、シロキシルシノシカと列べし。祥ハ、書紀ハ、サガと列。休祥祥
 物又祥瑞と列とて、こけの列は、又鹿もカセギと列とて、此ハ、右也
 神護景 五月の漢文、詔ハ、先是、伊豫國、負外、掾、從六位上笠朝
 臣、雄宗、猷、白鹿、執、曰、云々、去歲、得、伊豫國、守從五位上高
 圓、朝臣、廣世、等、進、白鹿、一頭、云々、と、て、何ら、ハ、去歲云
 云の方先是、云々、此方ハ、明年、此事、と、は、別事、同、年、改元 室龜 十月、授
 伊豫、守從五位上高圓、朝臣、廣世、正五位下、掾云々、並是、
 貢瑞、國郡司、去、五月、有、勅、進、位、二階、至、是、授、焉。○与呂許
 保志 奈止、一本ハ、保字、を脱、止、字、を、仁、ナ、と、誤、り、
 著登と列べし。紫也、小、新、年、也、と、其、の、神、事、也、と、云、ら、る、也、

其騰とつるよとく日ト壽詞とハ事と言との美をよきて三とハ冬ふは日の雨
 の潤と白鹿と今一つハ新嘗をいふるべし復とつるハこゆるけふ又別ふま
 やふゆるをいふるハあはれは三の吉事也日時ふ集ひるを復といふ也○集天
 在之ハアルモと例べし止字ハ決く毛の程也之ハ助給也又アルモと例べし
 時ハ之ハさしをいふ程也後アルモといふ方まをるべし○甚希有甚字
 本ざとふ其ハ淫系今改む希有ハメツラシと例べし履中紀ハ例也又神功紀
 希見此云梅豆邏志敏在也未嘗有崇峻紀ハ所希聞也今希將見
 ○尊備備字一本ハ美と例也○麗白伎形乎云々かの白鹿を今曰ハ
 鏡り王位もちふも足き給りぬべし○食倍ハタへと例べし此ハ例り
 多末倍惠良伎とつるはるる也○賜礼ハ俗云ふつるまきといふ也
 此ハ例ハ例ハ賜利以天退と云ふ例也

第四十七詔

同四年八月庚寅朔癸巳天皇崩于西宮寢殿春秋五十
 三左大臣從一位藤原朝臣永手右大臣正二位吉備朝
 臣真備云々等定策禁中立諱為皇太子左大臣從一位
 藤原朝臣永手受遺宣曰とつり

今詔久事卒爾有依天諸臣等議天白
 壁王波諸王乃中尔年齒毛長又先帝
 乃功毛在故尔太子止定天奏波奏流麻
 宣給止勅止宣

事卒尔 尔云々 上の尔字一不尔然と作る。其の事。自ら幸
由義宮之後。不豫。経月と多て。大内宿願。あつた。あつた。いふ。いふ。
皇嗣を定め給はせし。家坐。おぼし。と。いふ。いふ。と。あつた。あつた。
あつた。あつた。将死命。尔波可尔成奴。と。いふ。いふ。と。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
○白壁王ハ。天智天皇ハ。大内宿願。施基。を。子。に。あつた。あつた。あつた。あつた。
を。贈。大政大臣。紀。新。諸人の女。嫁。姫。と。し。し。き。此。王。此。時。年。ハ。六十二。位。
ハ。正三位。の大納言。おぼし。ゆ。ゆ。ゆ。○年齒。毛。長。利。こ。こ。ヒト。ナリ。と。いふ。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
字。ハ。多。を。信。ま。つ。もの。又。太。を。姑。く。多。氣。多。理。と。訓。つ。多。氣。ハ。高。く。あつた。あつた。
いふ。六十八。年。毛。高。久。成。流。朕。乎。置。且。と。いふ。又。奈。字。を。あつた。あつた。あつた。あつた。
ナリ。と。訓。さ。う。と。受。ど。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

さ。八。河。く。三代実録四十四。詔。小。老。孝。天皇。を。伊。位。小。即。ち。あつた。あつた。一
品。行。式。部。卿。親。王。波。諸。親。王。中。尔。貫。首。毛。御。坐。又。前。代。尔。
無。太。子。時。波。如。此。老。德。手。立。奉。之。例。在。必。以。御。齡。母。長。給。
此。御。心。母。正。直。久。慈。厚。慎。深。御。坐。天。云。く。と。名。前。代。尔。云。く。ハ。
此。光。仁。天皇。の。例。を。い。つ。し。○先。帝。ハ。大。内。祖。父。天。智。天皇。功。ハ。あつた。あつた。の。法。制。
を。改。め。し。の。不。改。常。典。を。ま。つ。つ。○太。子。止。定。天。上。の。諸。臣。等。議。天。
を。此。處。へ。係。ま。り。○奏。波。を。い。つ。し。を。子。を。定。め。給。は。せ。し。て。事。お。さ。し。あつた。あつた。
あつた。あつた。止。事。え。ど。法。后。議。り。て。定。ま。る。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
○奏。尔。流。麻。宣。給。布。勅。下。麻。の。下。も。一。本。尔。字。を。宣。字。ハ。定。ま。
信。ま。し。定。給。布。ハ。天。を。定。ま。給。は。せ。し。し。ま。と。い。は。し。あつた。あつた。あつた。あつた。
坐。て。后。小。定。地。つ。つ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
嗣。を。臣。と。し。て。定。ま。る。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

一なりは、よく顧みたり。先づ大徳を以て、おもしろく天を以て、
わが身を、侍らりしを、さしなむ。おもしろく、かゝるに、後ひたり。おもしろく、
かゝるに、おもしろく、正しき道あり。おもしろく、おもしろく、おもしろく、
ぬしき、おもしろく、おもしろく、同月、授從四位上坂上、大忌寸、苅田麻呂、
正四位下、以告道鏡法師、奸計也。宝龜三年四月、下野國、
言造藥師寺別當道鏡死。道鏡、俗姓、弓削、連、河内人也。略、
涉梵文、以禪行、聞由是入、内道場、列為禪師。宝字五年、從、
幸保良時、侍者、病、稍被寵幸。廢帝常以、為言、與天皇不相、
中、得、天皇乃還平城、別宮、而居焉。宝字八年、太師惠美仲、
麻呂、謀反、伏誅、以道鏡為太政大臣、禪師、居頃之、崇、以法、
王、載以鸞輿、衣服、飲食、一擬供御、政之巨細、莫不取決、其、
弟、淨人、自布衣、八年中、立至、從二位、大納言、一門五位者、

男女十人。時太宰主神習宜阿曾麻呂詐稱八幡神教、誑、
耀道鏡、之信之、有覬覦神器之意。語在高野、天皇紀、洎、
于宮車晏駕、猶以威福由己、竊懷僥倖、倖倖御葬禮畢、奉守山、
陵、以先帝所寵、不忍致法、因為造下野國藥師寺別當、逆、
送之、死、以庶人葬之。此一也。藤原永手、大佐の傳、云、宝龜、
元年、高野、天皇不愈、時道鏡因播籍恩、私勢振、内外、自廢、
帝、點宗室、有重望者、多羅、非辜、日嗣之位、遂且絕矣。道鏡、
自以寵愛、隆渥、日夜僥倖、非望至、宮車晏駕、定策、遂安、社、
稷者、大臣之力、居多焉、と云々あり。

